2022年度　　のぞみ共同作業所(就労移行支援・就労定着支援) 事業報告

1.事業所の状況　　2023/3/31現在　　定員：　8 名

年齢別利用者数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	0	1	2	1	0	0	4
女性	0	1	0	0	0	0	1

利用期間別利用者数

	6か月未満	6か月～1年未満	1年～1年半未満	1年半～2年	2年～2年半未満	2年半以上	合計
男性	1	2	1	0	0	0	4
女性	0	1	0	0	0	0	1

障がい種別ごとの利用者数

	精神	知的	身体
男性	3	1	0
女性	1	0	0

開所日数と利用実績

	年間合計	年間平均
開所日数	254	21.2
延べ利用者数	1115	93
（うち在宅支援）	57	4.6
月初在籍者数		
新規利用者数	4	
退所者数	10	
相談・見学件数	7	
体験利用者数	6	
施設外支援	15	

利用希望、新規利用および退所者の状況

見学者の状況	22年度は7名の方が見学に来られている。 ・1名は前年度から体験通所を重ねていたが、生活部分での課題が大きく、本人・ご家族、委託相談支援先と話し合いを重ね、別事業の利用から始めていく方向で障がい者相談支援センターに引き継いだ。 ・1名は過去に就労経験もあった方。のぞみ工作所と並行して体験利用を進められ、現在抱えるご自身の課題からのぞみ工作所の利用を決められる。 ・2名がのぞみ工作所の利用期限を迎えられた方。他事業所と比較したうえで、利用を決められる。 ・1名は市外の施設に入所中で、退所が決まった方。ご自宅に戻って復職を目指すにあたり、法人のHPから興味を示して見学に来られる。しかし市外にあるご自宅から事業所までの距離が遠かったため、利用にはつながらず。 ・1名は同事業所の生活介護を利用していた方。再度就職を目指したい気持ちから就労移行の利用を決められる。 ・1名は委託相談先から紹介され体験を重ねる。他の事業所と比較したうえでのぞみ共同作業所の利用を決められる。 担当者会議などで障がい者相談支援センターや、関係機関にお会いした際にはのぞみ共同作業所での取り組み内容や特徴をお伝えしてきたが、22年度はスタッフ体制が整わなかったことから事業所紹介に力を入れて取り組むことできず。紹介先は法人内の事業所や障がい者相談支援センターからが多かったが、2021年度に市内の就労移行支援事業所合同説明会でのパンフレットを見てくださっていたり、事業所の特徴を理解したうえで利用者が抱える課題やニーズに合わせて紹介してくださっていると感じており、機会があるたびに関係機関に伝えてきた効果は感じられた。年度の後半には、就労移行支援を廃止することが検討され始め、新規利用者の募集はストップさせていただいた。

退所者の状況	・1名の方が就労を目指すよりも、生活部分における課題にまずは取り組みたいことを希望され、本人、計画相談とも話し合い、退所となった。 ・1名は希望していた社会との繋がりや、自身の役割を見つけていくことへの実現方法が就労だけではないことを見出され、本人、計画相談とも話し合いを重ねて法人内のB型事業所に移籍されることとなった。 ・1名は家族の入院で私生活が大変な状況が続くなか、作業所内でも他のメンバーの言動をしんどく感じるようになり、退所となった。契約終了後は就業・生活支援センターへ引継ぎ定期的に連絡をとっていたが、新たな事業所に繋がったため終結となった。 ・2名が就職して退所となったが、1名はクローズでの就職となった。就労後の事業所による支援が限定的なかたちとなってしまうことや、何かあっても会社から理解が得づらいことについて説明をさせていただくが、働き続けることをご本人は選択される。ご本人の了解を得たうえで利用されているデイサービスと病院のスタッフと情報を共有し、就労後の支援を定期的に継続している。 ・3月末まで利用されていた5名の方には2022年度いっぱいで事業所が廃止になることを1月に説明。それぞれの利用者の方から今後の希望について丁寧にうかがい、関係機関と協力しながら次の事業所への見学同行や、体験後の振り返りをおこなってきた。全ての方が次の通所先へとつながり、事業も無事に終了となった。

苦情受付および事故の状況

苦情の概要、その後の対応について
＜苦情①＞　匿名の電話 　左端にうっすらと糊付けしたような跡は確認出来るが、のぞみ便りが開封した状態で届いたとの連絡。そんなことはないと思うが、誰かが勝手にあけたと思うと気持ち悪いので、伝える機会があれば職員で共有していてほしいとのことだった。 ⇒謝罪とお礼を伝える。職員で連絡があったことについて共有し、郵送時に開封した可能性もあるが、発送前に封止めできているかについて確認を行うことを徹底する。
＜苦情②＞職員の対応について（1） 　作業時、内職で使用する部材を分け合う際になにも言わずにとっていく利用者がいたが、その場にいた職員がその場面を見ておらず。そのような場面があったことについて利用者から職員に伝えたところ、何も言わずにとっていったメンバーの障がい特性上、仕方がない部分があると、自分に理解を求められるような声掛けをされたことが納得できないとの訴え。 ⇒別の職員が経緯について話をうかがう。黙ってとっていった利用者に対して、そのような特性があることについて理解はしているが、こちらの話を最後まで聞かずに上記のような返し方を職員からされたことに思うところがあるとのことだった。最後までしっかり話をうかがうと、これから働くことを目指していくのであれば、就職したあとで職場でしんどい思いをする部分もあるのではと、相手を思っての言葉もあった。職員からちゃんと伝えてあげるべきでは、と話したかったことがわかった。最初に対応した職員ともその場で共有し、以降気を付けますと謝罪し、その方を思っての助言であったことについてお礼を伝えた。

＜苦情③＞職員の対応について（2）

作業時に内職で使用する部材を分け合う際に、再度なにも言わずにとっていく利用者がいた。そのことに対して、なにか言ってほしいことを直接伝えても、なにも言われず。その場を見ていた職員が指摘と助言をしたことで、なにも言わずにとっていった利用者からも一言謝罪の言葉が出てその場は治まる。

なにも言わずに部材をとっていた利用者が休憩に入った際にたまたま職員が声を掛けると、先ほどのことについての話になったので、次からの対応としてこうしてほしいと考えていることを職員からお伝えする。その様子を、部材をとられたほうの利用者が見ており、僕にはなんのフォローもないのですかと怒り気味に職員に話してこられる。

⇒その利用者には次回からの対応として気をつけてほしいことを伝えていたことを説明するも、やられた僕だって話を聞いてほしいのに、片方にだけフォローするのはおかしくないか、こちらだってモヤモヤしている部分がある、とのことだった。そのような状態であったことに気づけなかったのはこちらも申し訳なかったことを伝え、そのような場合は発信していただきたいこと、また今後働く上では発信していく必要性があることについて説明。ただ、どのタイミングで発信していいかは自分ではわかりづらいため慣れるまでしばらくは、今回のようなことが起こった後には大丈夫かという声をスタッフから掛けてほしいとのことだった。そのような場面があった際には、こちらから声を掛けて様子を聞かせていただくことと、自身から発信できるようになるために振り返りも一緒におこなうこととなった。

＜苦情④＞　トイレの利用が汚い

特定の利用者が利用した後にトイレが汚れた状態のままであり、次に使用する方から苦情の声が出ている。

⇒当該の利用者に、ご自身が使用した後のトイレを確認していただき、みんなで利用する共用部分においては次に利用する人のことを考えて綺麗にしてもらいたいことを説明。清掃方法がわからないとのことだったので、便座や蓋はもちろんのこと、便座裏や便器の淵までついている汚れについて確認し、職員と一緒に掃除の方法について確認した。汚した場合は次回からご自身でも掃除をして綺麗にしてから出るようにすることと、一人では難しい場合は職員に声を掛けていただくようにお願いした。

2.就労支援の状況

	年間合計	フォローアップ先		
フォローアップ件数	6	定員：	8	リビアス

3.就労定着支援

	年間合計	就職先
就労定着支援	106	障がい者の働く場事業団、松風園、吹田市民病院、,ケア21、PPIH、ひごペットフレンドリー、高田機工、日本システム、リビアス

4.事業所での活動内容

1.就労移行支援事業

のぞみ福祉会として、2023年3月31日をもって就労移行支援を廃止することが決定した。就労移行支援の利用者にとっても職員にとっても、やはりこのことが1年間の何よりも大きな出来事だった。

2021年度から、経験豊富な職員の退職が相次いだ。支援の幅が狭まることがないように、残ったスタッフはお互いの連携を密にし、少ない人数でできることを工夫しながら利用者お一人お一人に精一杯支援を提供してきた。就労定着支援事業の利用者を含め20名近くの利用者に対し当然それぞれ個別の対応をする必要がある。作業所内の作業も多岐にわたっており、日々の業務に追われる中で外部に向けた新規利用者獲得に向けての動きがとれず、収益につなげることができなかった。

廃止について利用者のみなさんにお伝えしてからは、お一人お一人から丁寧にお話をうかがい、不安や混乱の軽減に努めた。また、4月以降の行き先についてご家族や関係機関も交えて話し合いを繰り返し、それぞれ体験利用などを経たうえで、無事に次の通所先を決められている。突然の廃止の決定について、スタッフの中でも混乱することが増えていた。将来への希望をもって就労移行支援事業を選んでくれた利用者のみなさんにとってはなおさらだったのではないかと思うが、そういった中でご自身の目標を見失わず、最後まで事業所の活動に協力して下さった利用者のみなさんには本当に感謝している。

【就労訓練】

年度の当初はスタッフの人数が一時的に増えたこともあり、各利用者の就労に向けたアセスメントをさらに進められるように、総福清掃を再開し、吹田市働く場事業団や新たな内職業者に問い合わせて新規内職も増やしている。これまでと違った作業に取り組んでもらうことで、習得までにかかる時間、得手不得手など、得られる情報が新しくなり、今後の働き方や、職場に伝える配慮等、利用者それぞれの就労支援に活かすことができた。また新たな作業を導入することで、これまでの慣れた作業に取り組む中では見られなかった、「こうした方がいいよ」「私はこうした方がやりやすい」といった利用者間での仕事上のコミュニケーションや情報交換をする場面が見られるようになっており、実際の職場により近い形の訓練になっていると感じることができた。

施設外訓練の総福清掃では施設を利用するお客様にも注意を向けなければならず、ただ掃除をするだけでなく安全面も意識して広い視野を持って作業を進めていくことを学んだ。委託された業務を指示書どおりに終業時刻までに必ず終わらせるために、一緒に取り組む人との分担や進捗の確認など、内職の作業よりもコミュニケーションをしっかりとる必要があり、有意義な訓練現場になった。

内職作業が忙しい時には法人内の他事業所からスタッフが応援に駆けつけてくれ、多くの人が一緒になって納期に間に合うことを目標に仕事に取り組む一体感や達成した喜び、いつもと違った作業所の雰囲気をみんなで感じながら作業を進めることができた。

コロナ禍の影響で在宅支援に取り組む機会も増えた。初めのうちは利用者も勝手がわからず、スタッフも説明が不足してしまったり資料の準備が間に合わなかったりということもあったのだが、徐々に慣れていったことで非常時の支援の手段としてある程度定着したと思う。

【プログラム】

感染症対策をしっかりと図りながら、これまで実施を控えていた取り組みを徐々に再開していった。作業や就労に向けての訓練だけでなく、遊び心を含んだプログラムを通じて、利用者同士のつながりを深めたり、ご自身の余暇活動にも活かしてもらおうと、2022年度はいろいろと工夫して取り組んだ。

月に1度のメンバーミーティングで利用者から挙げられる、やりたいこと、取り組みたいことをなるべく実現できるように努めた。具体的には、１人では映画館に行けないので作業所でみんなと一緒に見たいなど、ご自身の希望を話してくれた利用者がおり、周りの利用者も共感しながら聞いたうえで一緒になって実現に向けて動いてくれていた。

また楽しむプログラムだけでなく、コミュニケーションについて苦手意識があるのでその部分を改善するためのプログラムを開催してほしい、とかつての失敗談を交えながら話してくれた方があり、全体プログラムを再開することにした。それぞれ訓練の進捗状況が違う利用者同士がお互いを尊重し合い、助言を送り合ったり、終わった後に意見交換をする姿を見ていると、再開したことへの効果を感じることができた。そういったことに取り組んでいるうちに、ｍｔｇ以外の場でも今度は「オープンとクローズの違いはなんですか」「障がい者雇用というけど、一般の就職とは具体的には何が違うの」といった声があがるようになり、それらの声を拾うことでこちらも次のプログラムを検討することができた。

ビジネスマナー講座を少人数で開催し、気になるテーマを決めて働く上で必要なマナーを一緒に学んだ。身だしなみ、敬語、電話応対、職場のコミュニケーションなど、今更聞きにくいと感じているテーマを含めてたくさんの希望があがっていた。簡単な実践の時間を取り入れることで、働いた経験がない利用者でもイメージしやすいように努めた。過去の失敗経験を振り返る利用者もおられ、その場で共有し話し合うことで次につなげる経験として受けとめることができていた。

【求職活動と企業実習】

コロナ禍で中止となっていた合同面接会や、その他の就職イベントについて、2022年度は開催されるケースが増えてきた。それらのイベントにも参加しながら、それぞれの利用者が気になる求人について、ハローワークや企業に直接問い合わせ、個別もしくは少人数で面接までつなげていく機会を多く提供できた。市内の就労ネットワークのつながりが強化できたことによって、ハローワークや就業・生活支援センターから非公開の求人をいただけるようになり、利用者のニーズとマッチすれば紹介できる求人が増えた。

利用者が希望する働き方が実現できるように、アセスメントを頻回に行い、希望に併せて通所回数の見直しを提案したり、段階的に負荷をかけていきながら、ご自身で感じる変化と必要な対応について振り返りをおこなっていくことで、利用者ご本人が働く上でのイメージを持ちながら訓練に取り組んでいただけるよう努めた。また就労準備性を高めていくために、体調不良時や、症状が出た時の対処について、利用者とスタッフとで確認を行い、ご自身の障がい特性と企業に求める配慮について、必要に応じて職場に説明できるように準備した。作業所内のアセスメントだけでなく、他の支援機関の適性検査を活用したり、実習体験先から返してもらった評価について振り返ることで、希望する働き方が本当にご自身に合っているのか確認し、場合によっては方針を変更することについても一緒に検討した。

面接を何度か受けても、なかなか採用とならないケースも多い。作業所内で他にも就職活動をされている方や、定着支援を利用している方が振り返りに来た際に、同じような経験の中で頑張った内容や、結果として今の職場に決まったことなどを話してもらい、体験を共有できることが一人ひとりの利用者の励みになっている。また不採用の理由について、ハローワークを通して知ることもできるため、対策を練ってそれぞれが情報交換する場面もあった。ただ一方で、数人で同じ企業面接を受けた際に、お一人だけ雇用に向けた話が進んでいくというケースもあり、声が掛からなかった方の就労へのモチベーションの回復に時間がかかってしまう状況もあった。

2．就労定着支援

2022年度はフォロー期間と定着支援を併せて12名の方を支援してきた。就職直後半年間のフォロー期間は面談、電話、メールなどでこまめに様子をうかがい、職場へも1～2週に1度の頻度で訪問させていただいた。就労によって環境が大きく変わるご本人へのサポートはもちろん、受け入れる側の職場にとっても知らないことの方が多く、障がい特性や対応についてスタッフが利用者とともにお伝えすることで、一緒に働く方々も安心感を得られる。利用者が長く働き続けるためにはとても重要な期間となるため、支援の頻度を密にし職場と支援者との関係性の構築に努めた。

半年間就労が続いた方の全てが就労定着支援事業の利用につながっている。そのタイミングで改めてご本人と会社と支援者で話し合いの場を持ち、3年と定められた事業における利用目的と支援の在り方について最初に説明させていただいている。目的と目標を3者で共有したうえで利用者の就労生活を支援することで、利用期限を迎えた際にも次の支援機関への引継ぎがスムーズに進むケースが多い結果となっている。

2022年度も、就労定着支援の利用者が働いている会社を退職するケースがいくつかあった。これまでは、ご本人、会社、スタッフとで何度か話し合うことで、互いに納得して退職という結果となることが多かったのだが、2022年度は様々な要因によって、納得しての退職とは言えないようなケースもあった。具体的には、職場が大きく人員不足になってしまい、キーマンとなってくれていた方も体を壊して急な退職となってしまったケースがあり、社内での引継ぎが不十分になってしまった影響で、ご本人に任せる業務量においても特性に合わせた調整が難しくなってしまったことがあった。こちらも職場に出向いて何度も話し合い、業務量について調整をお願いしたのだが、職場自体にそこまでの余裕がなく、ご本人の体調が大きく崩れてしまう結果となってしまった。体調が崩れた状態では次の支援先にこともなかなか難しく、退職支援終了後、就労定着支援の契約は終了しているのだが、その後も作業所のスタッフが支援を続けている状態である。

3．相談支援、生活、余暇支援

個別で生活部分を中心に面談を実施した。2ヶ月に1回を基本に、必要であれば回数を増やして、その時に必要な課題を一緒に考えていくようにした。事業所だけで対応せず、医療機関、社協、計画相談事業所などにつなぎ、協力しながら支援を進めた。働き続けるために必要なことは、職場だけではなく生活部分が大きく影響していることを確認しながら取り組んでいった。

気候の変化に対応できず体調不良になる方が多かったため、食事、睡眠を改めて確認し、利用者の生活状況を踏まえて助言を行った。利用者によっては家庭での課題も見え、本人だけでなく家族の支援に繋がった。

コロナの影響で来所できない方への対応に工夫をした。駅での面談の実施、利用者に応じた在宅支援に取り組み、形にとらわれず本人が通所しやすいものを提供するようにした。

就労移行事業所が閉鎖になると決定したあとは、本人の希望を丁寧に聞き取り、今後について話し合う機会を何度も設けた。突然のことで戸惑った利用者が多かったが、不安を一つずつ取り除き、希望を整理し、今後の選択肢を考えていくことで、前向きに捉えて頂くことができた。2023年5月現在ですべての方が、他事業所に移ることができている。

利用者ミーティングでは、予定の確認やレクプログラムについて議論している。特にレクプログラムは、工場見学や映画観賞会、ボッチャなど多種多様な提案があり、徐々に利用者からの発言が増えていった。ゆったりするレクから外出レクまで、利用者・スタッフが共にレクに参加することで、関係性が深まったと感じられた。

4.職員の資質向上に向けた取り組み

事業所内研修では、セルフケア、虐待防止、支援計画についての研修を実施した。外部研修では、就労支援に関する研修にもスタッフが参加している。しかし、年度の後半はスタッフの退職が続いたことや閉所に伴う業務が増えたことで、研修を開催する機会が少なくなった。

新人研修に参加した者は、所属する事業所だけでなく、他の事業所のことや法人運営のこと、地域の資源などについて学んだ。

5.感染症等に対する取り組み

熱中症対策として、毎週水曜日の総福清掃、不定期でのポスティングや除草作業の際には、利用者にスポーツドリンクを支給し、こまめに水分補給するように声をかけた。

朝礼等で新型コロナウイルスに関する情報を利用者と共有した。スタッフに陽性者が発生したが、大きな混乱なく事業を継続することができた。

5.職員の状況

職員会議の実施状況

名称	回数	内容及び状況
支援会議	12	常勤・非常勤が全員参加する会議。ケース、予定等。
就労ミーティング	43	毎週火曜日に実施している会議。日々の業務や支援等を確認する会議

法人内のプロジェクト担当

名称	担当者	回数	内容
管理者会議	平形・髙橋	12	法人の管理者が出席する会議

対外的な活動

名称	担当者	回数	内容
働く場事業団役務会議	信田・鹿末	4	事業団を通して業務委託された各事業所から課題抽出や提案を行う。また新役務の内容説明や事業所からの参加の有無について確認等が行われる。
就労支援ネットワーク会議	髙橋・鹿末	2	吹田市の福祉計画に基づき、障がい者の就労支援環境の整備を目的として行っている。吹田市、吹田市内の就労移行支援事業所、就業・生活支援センター、ハローワークなどで構成している。

2022年度 事業実施状況

	事業所活動
定例	・利用者ｍｔｇ（月1回）　・連絡会（生活介護と偶数月に開催）　・生活介護との合同作業（月2回）
4月	・外出プログラム(お花見)　・コミュニケーションプログラム（あいさつ）　・個別での内職体験（生活介護より受入れ） ・調理プログラム（豚汁・うなぎご飯）
5月	・外出プログラム（散歩）　・個別での内職体験（生活介護より受入れ） ・コミュニケ－ションプログラム（ちょっとした一言）　・映画鑑賞会
6月	・外出プログラム（ニフレル、エキスポシティ）　・音楽の会　・コミュニケーションプログラム（断り方） ・スイーツの会　・外出プログラム（サフラン個展）
7月	・外出プログラム（二手に分かれてコメダ珈琲とトナリエ）　・外出プログラム(BR作品展) ・コミュニケーションプログラム（雑談について）　・外出プログラム（業務スーパー見学）
8月	・大掃除　・花園大学より実習生　・送別会　・調理プログラム（アレンジ料理） ・一斉在宅支援（コロナ陽性者出現のため）　・音楽の会
9月	・映画鑑賞会　・合同面接会（マイドームおおさか）
10月	・運動プログラム（ボッチャ）　・全体プログラム（オープン・クローズ）　・外出プログラム（アサヒビール工場） ・全体プログラム（求人検索について）
11月	・アニメ鑑賞会　・生活介護合同プログラム（防災ウォーキング）　・ビジネスマナー講座（あいさつ） ・外出プログラム（千里北公園）　・全体プログラム（就労ピラミッド）　・ビジネスマナー講座（みだしなみ）
12月	・就職者を祝う会　・クリスマス会　・打ち上げ（ボウリング）　・大掃除
1月	・初詣　・説明会（事業の今後について）　・ビジネスマナー講座（敬語）　・第三者委員 ・ビジネスマナー講座（敬語応用編）
2月	・節分　・音楽の会＆バレンタイン　・ハートふれあい祭りプレ（焼き鳥試し焼き） ・外出プログラム（エキスポシティ）
3月	・第三者委員会（メンバーへの報告）　・ハートふれあい祭り　・お疲れ様会

2022 年 度 研 修 参 加 実 績

事業所名： のぞみ共同作業所 （就労移行支援）

氏名	開催日	研修時間	研修テーマ	①人権	②事業	③資格	④管理者	⑤新人	⑥SW	⑦法律	⑧その他	備考
黒永達也	4月25日	10 ： 00 ～ 16 ： 00	新入職員のためのサービスマナーセミナー					○				
平形恒雄	5月17日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	セルフケアチェックと虐待防止について								○	
信田涼	5月17日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	セルフケアチェックと虐待防止について								○	
礒野和美	5月17日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	セルフケアチェックと虐待防止について								○	
鹿末智仁	5月17日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	セルフケアチェックと虐待防止について								○	
黒永達也	5月17日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	セルフケアチェックと虐待防止について								○	
髙橋真紀	5月17日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	セルフケアチェックと虐待防止について								○	
鹿末智仁	5月18日	15 ： 00 ～ 17 ： 00	ハローワーク活用法について		○							オンライン研修
黒永達也	5月18日	15 ： 00 ～ 17 ： 00	ハローワーク活用法について		○							オンライン研修
鹿末智仁	5月19日	15 ： 00 ～ 17 ： 00	ハローワーク活用法について		○							オンライン研修
黒永達也	5月19日	15 ： 00 ～ 17 ： 00	ハローワーク活用法について		○							オンライン研修
鹿末智仁	5月21日	13 ： 30 ～ 17 ： 00	就労支援におけるソーシャルワークって何だろう？						○			大阪PSW協会キャリアアップ研修
鹿末智仁	5月26日	13 ： 30 ～ 15 ： 30	令和3年度就業支援基礎研修～事業所見学～		○							
信田涼	6月21日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	虐待防止について	○								
礒野和美	6月21日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	虐待防止について	○								
鹿末智仁	6月21日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	虐待防止について	○								
黒永達也	6月21日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	虐待防止について	○								
髙橋真紀	6月21日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	虐待防止について	○								
黒永達也	6月17日	10 ： 00 ～ 17 ： 00	面接相談援助技術基礎講座					○				
平形恒雄	7月19日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	個別支援計画について		○							
信田涼	7月19日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	個別支援計画について		○							
礒野和美	7月19日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	個別支援計画について		○							

鹿末智仁	7月19日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	個別支援計画について		○							
黒永達也	7月19日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	個別支援計画について		○							
鹿末智仁	8月5日	16 ： 00 ～ 17 ： 3 0	就業規則について					○				法人内新人研修
黒永達也	8月5日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	就業規則について					○				法人内新人研修
鹿末智仁	8月19日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	法人組織や経営のしくみ					○				法人内新人研修
黒永達也	8月19日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	法人組織や経営のしくみ					○				法人内新人研修
鹿末智仁	9月2日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	利用者の話を聞く力					○				法人内新人研修
黒永達也	9月2日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	利用者の話を聞く力					○				法人内新人研修
信田涼	9月20日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	防災について								○	事業所内研修
鹿末智仁	9月20日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	防災について								○	事業所内研修
礒野和美	9月20日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	防災について								○	事業所内研修
鹿末智仁	10月14日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	職員との交流と研修の振り返り					○				法人内新人研修
信田涼	10月18日	14 ： 00 ～ 15 ： 00	セルフケアについて	○								事業所内研修
鹿末智仁	10月18日	14 ： 00 ～ 15 ： 00	セルフケアについて	○								事業所内研修
礒野和美	10月18日	14 ： 00 ～ 15 ： 00	セルフケアについて	○								事業所内研修
信田涼	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○								
鹿末智仁	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○								
礒野和美	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○								後日視聴
新田麻由子	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○								
信田涼	12月20日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	1年を振り返って								○	事業所内研修
鹿末智仁	12月20日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	1年を振り返って								○	事業所内研修
礒野和美	12月20日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	1年を振り返って								○	事業所内研修
信田涼	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 30	法人内研修ハラスメントについて	○								法人内研修
鹿末智仁	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 30	法人内研修ハラスメントについて	○								法人内研修
礒野和美	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 30	法人内研修ハラスメントについて	○								法人内研修
新田麻由子	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 30	法人内研修ハラスメントについて	○								法人内研修

2022年度　　のぞみ共同作業所(生活介護) 事業報告

1.事業所の状況　　2023/3/31 現在　　定員：　12 名

年齢別利用者数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	0	1	3	9	5	6	24
女性	0	0	6	3	2	3	14

利用期間別利用者数

	１年未満	１年～３年未満	３年～５年未満	５年～１０年	１０年以上	合計
男性	1	9	14	0	0	24
女性	2	7	5	0	0	14

障がい種別ごとの利用者数(重複あり）

	精神	知的	身体
男性	24	0	24
女性	13	2	14

支援区分別利用者数

	区分２	区分３	区分４	区分５以上
男性	3	18	3	0
女性	2	9	3	0

開所日数と利用実績

	年間合計	年間平均
開所日数	251	20.9
延べ利用者数	2853	241.0
（うち在宅支援）		
月初在籍者数		
新規利用者数	4	
退所者数	5	
相談・見学件数	6	
体験利用者数	6	

利用希望、新規利用および退所者の状況

見学者の状況	2022年度は4名の方が新たに生活介護事業の利用を開始された。計画相談事業所からの紹介で来られた方、通院先の医療機関でのぞみ便りを見て連絡をくれた方、就職されていたが退職された方など、利用に至るルートは様々だが、みなさん「生活のリズムを整えたい」「他の人と交流したい」という利用目的は共通していた。女性の見学者が多かったのも2022年度の特徴である。 一方で、秋から冬にかけては職員体制が整わず、こちらから外部の機関に対して積極的に利用者募集の呼びかけをすることができなかった。実際に新規利用の方は年度の前半に集中しており、後半はいらっしゃらなかった。
退所者の状況	2022年度5名の方が生活介護の利用を終了されている。就労移行支援への移籍、生活訓練事業への移籍などの理由の他に、病状の悪化やご本人の特性から、生活介護事業の利用が続けられなくなってしまったケースや、はっきりとした利用の目的を見いだせないまま利用が途絶え、そのまま退所になるケースもあった。

苦情受付および事故の状況

	年間合計
苦情件数	2
事故件数	0

苦情の概要、その後の対応について
＜苦情①＞利用者より、マスクの着用について 利用者Aさんより、「Bさんが、マスクを外してしゃべり倒していた。それで僕が注意したら言い返されてケンカになって。スタッフからも言ってもらえませんか。マスクをするのがルールならスタッフさんのほうでも徹底してほしいんですよ」という苦情があった。 Bさんがお茶を飲む際にマスクを外してコップを持ったまま話し始めてしまい、Aさんが声をかけるも、Bさんとしては「お茶を飲んでるんやんか」と言い合いになってしまったという状況。スタッフもBさんがマスクを外していることに気づいてはいたが、お茶を飲むタイミングも見ながら声をかけずに見守るという形になってしまい、コロナ感染対策に敏感になっているAさんからの声かけが先になってしまったのは申し訳なかった。帰宅後、Aさんから電話をいただき、話を聞かせて頂くことで、Aさんの気持ちは落ち着いた。 Bさんの調子が上がっており、その日もよく話されていたため、そのこと自体にAさんは困っておられたという背景もあるが、その場に居たスタッフの感染症への意識の低さから声かけが遅れてしまい、Ａさんに不安な思いをさせてしまったことは申し訳なかった。お互いの利用者の状況も確認しながら、スタッフが早めの行動をとり、その場でお互いにしっかり説明をしていくべきだったと反省している。
＜苦情②＞麻雀大会の再開について コロナ以前に行っていた麻雀大会について、利用者Ｃさんより「コロナが落ち着いたら麻雀大会を再開すると話していたのに再開されない。いつになったら再開されるのか。みんなも楽しみにしている。自分以外の麻雀大会参加者にもスタッフが迷惑をかけている。利用者mtgで要望を言っても実現しないなら、mtgで要望を聞くこと自体を無くしてほしい。」という苦情があった。利用者Cさんから、管理者に対してイライラが募り通所ができない旨の電話がある。管理者以外のスタッフが電話でお話を聞かせていただく中で、面談として通所していただくことにし、話を聞かせていただいた。その後、「どのような形なら開催できるか一緒に考える」ということになり、6月に再開の見通しが立っている。 元々、シードの地活時代にCさんがボランティアさんと一緒に行っていた麻雀大会を、のぞみ共同作業所の生活介護が引き継いだだかたちになっており、「事業所のプログラム」という位置づけとは少し異なり、スタッフが入らない形で場所と麻雀卓だけお貸しして実行し続けていた。参加メンバーは4名～5名で、当事業所の利用者はＣさんのみ。他の参加者は同法人で他事業所の利用者とボランティアさんで、コロナで一旦中断した後、どのような形で再開しようか迷っていた所だった。 その他の利用者で「参加したい」という声が挙がると、「どうぞ」というスタンスで活動されているが、通常のプログラムとは違う位置づけになっており、「元々のメンバーで麻雀がしたい」というCさんの思いもあって「新たな利用者が見学」という形や、「ボランティアさんが見学」という形を取られている。１卓しかない麻雀卓では、希望される利用者全員が麻雀を実行することが難しかった。麻雀大会にはスタッフが関わって居なかったこともあり、改めて話し合うことで、スタッフ間でも「今後の麻雀大会の開催について」の考え方が異なっていたことに改めて気付かされた。曖昧な形で色々なスタッフからCさんに声をかけていたことで、混乱させてしまうことに繋がり、申し訳なかった。コロナを理由に再開を先延ばしにしたり、スタッフ間でも共通認識が取れていなかったことに反省し、話し合いの場の大切さについて改めて感じさせられた。

3.事業所での活動内容

（1）プログラム活動について

コロナウイルスによる行動制限が緩和されたことや、4月より新しい職員を迎えたことで、年度当初からプログラム活動の内容や場所、時間帯をより柔軟に検討できるようになった。総合福祉会館大広間でのお楽しみ会、目俵体育館でのバドミントン、電車に乗って大阪暮らしの今昔館の見学など、事業所の外に出ていく活動も久しぶりに再会できた。また保健センターから講師を招いて栄養に関する勉強会を開催したり、ブルーリボンのみなさんに来ていただいてコーヒー講座を開くなど、外部から誰かを呼ぶこともできるようになった。

利用者の声から新しいプログラムが次々と生まれたのも2022年度の特徴である。特に劇プログラム、初心者将棋の会、初心者麻雀の会は、毎回多くの利用者が参加する人気プログラムとして定着している。また、生活介護としては初めて第三者委員の事業所聞き取りができた。事業所を利用して良かったことや要望など、利用者が思っていることを第三者委員の中西基さんに聞いてもらった後で、みんなで昼食を食べて交流させていただいた。

このように、プログラム活動の種類や回数を増やしたことで日々の利用者数が増えた1年だった。大変ありがたいことなのだが、参加者が増えた分、利用者同士のトラブルも増えた。また、個々の職員の忙しさが増し、疲弊につながっているという側面もある。利用者の意見に耳を傾けるのはもちろん、一人ひとりの職員がしっかり自分の意見を発信し話し合いを重ねることで、利用者にとって利用しやすく職員にとって働きやすい事業所を作っていきたい。

（2）相談支援

定期的な面談や職員の働きかけにより、個別支援計画について意識しながら事業所を利用する利用者が増えてきたように思う。何のためにこのプログラムに参加するのか、なぜ週3回の通所なのか、など自分自身で意識しながら事業所を利用することで、次のステップについて具体的に考えて就労移行支援事業に移籍した利用者や、B型事業所の体験利用を始めた利用者もあった。移籍や体験利用のような大きな動きでなくても、「他の人とうまくコミュニケーションをとりたいので、あいさつの練習をする」「自分の作ったものを他の人にも手に取ってほしい」など、それぞれの目標に向かって事業を利用するという良い流れができた1年だった。

一方で、特に夏から秋にかけて、冬から春にかけてという季節の変わり目に調子を崩す利用者が相次いだ。内科的な病気から精神症状を悪化させる方もおり、普段からの体調管理の大切さを改めて実感する機会となった。入院された利用者も複数あり、ご家族や病院と連絡を取りながら、退院に向けてのカンファレンスの開催準備を進めたケースもあった。

利用者から、自分のことだけではなくご家族についての相談も引き続きたくさんあった。特に高齢のご家族について、今後の不安を抱えている利用者が多く個別にお話を伺いながらお手伝いできるところはさせていただいた。

プログラムを開催していない時間帯に「今から行ってもいいですか？」「ちょっとお話を聞いてもらえますか？」と来所される利用者が増えた。相談したいことがあって来られる方ももちろんいらっしゃるが、「家にいても寂しいから」とお茶を飲みに寄られる方も多い。来所が重なった時には利用者同士でそれぞれの思いを分かち合っている姿も見られた。

2023年度4月からの法人の事業再編の影響で、2022年度の終盤は不安を訴えられる利用者が増えた。活動場所の変更や職員の異動についての不安がやはり一番大きく、利用者にとって通い慣れた場所や気兼ねなく話せる支援者の存在がどれだけ大きなことなのか改めて思い知らされた気がした。利用者が話される不安を一つ一つ丁寧に聞かせていただき、対応させていただくよう努めた。

（3）地域交流活動

特別な行事だけでなく、調理などの普段のプログラムにボランティアさんに参加していただく機会が増えた。利用者の中でもボランティアさんの参加が定着しており、それぞれ名前で呼び合う良い関係を築いておられる。職員からは出てこないアイディアなどもたくさん提案してくれ、事業所の幅を広げてもらっていると感じる。ボランティアさんには創作活動のワークショップの練習の際にもとてもお世話になった。2023年度以降も、生産活動など一緒に活動する機会を増やしていけたらと思っている。

毎月第2火曜日に開催しているアムールサロンでは、ポテトチップスづくりや防災かるたなどの他、近況報告などの楽しいおしゃべりを通じ、交流させていただいている。

大和大学の構内で創作活動（アロマワックスサシェと消しゴムはんこ）のワークショップをさせていただいたことも、新たな地域交流の一つととらえている。学園祭にも出展させていただき、学生さんをはじめ地域のみなさんにのぞみ共同作業所の生活介護を知っていただく貴重な機会となった。事業所内で取り組んでいることをみなさんに見てもらい、体験してもらうことで、利用者は事業所の中では得られない体験をし、自信をつけておられる。

また、大和大学では出張講座も担当させていただき、体験談発表は初めての経験だという利用者がお話をしてくださった。積極的に準備を進められたうえで当日も立派に話され、後日学生たちからメッセージをもらって「障がいのことをわかってくれていると思えたのがうれしかった」と話されていた。

そして、のぞみ共同作業所としては4年ぶり、生活介護としては初めてハートふれあい祭りに参加させていただいた。就労移行と合同で焼き鳥を販売し、母屋では創作活動のワークショップを開いている。多くの人と出会い、一緒に活動することで、利用者のみなさんが本当に良い表情をされていたのが印象に残っている。

（4）生産活動

10月のはぴすまののぞみ月間に今年も創作で作った作品を出展・販売させていただいた。はぴすま展示や販売に向けて、新たに作品を作られる方や、強迫性障害をお持ちで、持ち物を家から持ち出すことが怖かった方が「家で作ったけど見せる人がいなかったので見て欲しい」と、ご自身の作品の展示を決められたこともあった。はぴすまでの販売をきっかけに「自分でも販売してみよう」と、個人的にオンライン上で作品の販売を始めた方もおられる。

のぞみ月間では、はぴすまの店内スペースを利用して、アロマワックスサシェと消しゴムはんこのワークショップを開催させてもらった。地域の方々に作り方を教える機会ができたり、褒めてもらうなど評価をされる機会を持つことができ、利用者個人の自信が深まっている。さらに「もっとこんなことがしたい」という意欲が沸き、生活の楽しみにもつながっているように思う。ここでのワークショップが大和大学構内でのワークショップや学園祭への出展につながっている。

就労移行支援事業での内職作業は、おおむね月に2回のペースで開催した。いずれ就職したいと思っておられる利用者が、まず気軽に安心して「お仕事」に取り組める環境を作ることができたと感じている。また、ポスティングの作業にも楽しみながら取り組まれている。どちらも、少しではあるが工賃をもらえるのも利用者のモチベーションに繋がっていたのではないかと思う。

（5）職員の資質向上

年度当初に1年間の予定を立てて事業所内研修を開催した。研修の内容については、管理者等が決めるのではなく、出席する職員で話し合って決め、当日の進行も持ち回りで進めていくことにした。月1回、事業も経験年数も異なる職員が同じテーマに取り組む貴重な機会であり、年度の前半は開催できていたのだが、後半になり退職する職員や、お休みする職員が増えてきたところで開催が途絶えがちになってしまった。日々の業務とは違うところでホッと一息つける場でもあったので、2023年以降は、無理のない形で続けていけたらと思っている。

新人職員は法人内の新人研修に参加したほか、マナー講座など外部の研修にも積極的に参加した。

11月には「虐待と職員の疲弊について」というテーマのリモート研修を全員で受講した。北九州での実践を学びながら、日々の自分たちの働き方について振り返る機会となった。

3月には法人内のハラスメントに関する研修に職員全員で参加させていただいた。

（6）情報提供

日々のプログラム活動の紹介をしたり、毎月事業所のスケジュールを掲載するなど、法人のホームページを定期的に更新した。また、のぞみ便りの生活介護のページには、できるだけ利用者お1人お1人の声を載せるようにし、生活介護事業の活動内容をより身近に感じていただけるよう工夫した。

機関紙「ガーデニアだより」も継続して月に1回発行した。理由があって通所が止まっている利用者にも郵送しており、利用者と事業所のつながりを保持するための大切な手段となっている。

年度の終盤は、事業の再編についてなど重要な情報を利用者にお伝えする機会が多かった。職員の異動や引っ越しなどを含む大切な情報を平等に漏れがないように、多くの利用者に対し同時期に伝えることの難しさを改めて知ることになった。

（7）感染症や災害に対する取り組み

新型コロナウイルスの影響を受けながら活動を2022年度も継続してきた。日々利用者、スタッフで情報を共有し、うがい、手洗い等の基本的な感染対策を徹底したうえで、活動を縮小することなくプログラムを進められたことについては本当に良かったと思っている。

8月末に実際に管理者がコロナウイルスに感染した。管理者は2週間の休みを余儀なくされたが、その間は残されたスタッフが日々の活動を継続し、事業所を閉めることなく乗り切ることができた。コロナ禍が始まった当初から「陽性者が発生した場合のシュミレーション」について何度も確認していたことが功を奏したと考えている。

防災に関する取り組みとして、昨年に引き続き、就労移行支援事業と合同で防災ウォーキングを行った。災害時を想像して、危険がないか確認しながら歩くプログラムで、身近な所に災害用マンホールやかまどベンチがあることを知る機会となった。また、6月には阿倍野防災センターに出かけ、地震等の災害についての意識を高めた。

4.職員の状況

職員会議の実施状況

名称	回数	内容及び状況
生活介護mtg	23	予定の確認、プログラムの内容等について

法人内のプロジェクト担当

名称	担当者	回数	内容
のぞみスクラム会	篠原	18	のぞみ便りの編集等

対外的な活動

名称	担当者	回数	内容
Sリーグ会議	入澤	3	Sリーグの活動についての話し合い
働く場事業団事務局会議	入澤	9	働く場事業団の活動についての話し合い

2022年度 事業実施状況

	事業所活動
定例	・利用者ｍｔｇ（月1回）　・連絡会（生活介護と偶数月に開催）　・生活介護との合同作業（月2回）
4月	・外出プログラム(お花見)　・コミュニケーションプログラム（あいさつ）　・個別での内職体験（生活介護より受入れ）　・調理プログラム（豚汁・うなぎご飯）
5月	・外出プログラム（散歩）　・個別での内職体験（生活介護より受入れ） ・コミュニケ－ションプログラム（ちょっとした一言）　・映画鑑賞会
6月	・外出プログラム（ニフレル、エキスポシティ）　・音楽の会　・コミュニケーションプログラム（断り方） ・スイーツの会　・外出プログラム（サフラン個展）
7月	・外出プログラム（二手に分かれてコメダ珈琲とトナリエ）　・外出プログラム(BR作品展) ・コミュニケーションプログラム（雑談について）　・外出プログラム（業務スーパー見学）
8月	・大掃除　・花園大学より実習生　・送別会　・調理プログラム（アレンジ料理） ・一斉在宅支援（コロナ陽性者出現のため）　・音楽の会
9月	・映画鑑賞会　・合同面接会（マイドームおおさか）
10月	・運動プログラム（ボッチャ）　・全体プログラム（オープン・クローズ）　・外出プログラム（アサヒビール工場）　・全体プログラム（求人検索について）
11月	・アニメ鑑賞会　・生活介護合同プログラム（防災ウォーキング）　・ビジネスマナー講座（あいさつ）　・外出プログラム（千里北公園）　・全体プログラム（就労ピラミッド）　・ビジネスマナー講座（みだしなみ）
12月	・就職者を祝う会　・クリスマス会　・打ち上げ（ボウリング）　・大掃除
1月	・初詣　・説明会（事業の今後について）　・ビジネスマナー講座（敬語）　・第三者委員 ・ビジネスマナー講座（敬語応用編）
2月	・節分　・音楽の会＆バレンタイン　・ハートふれあい祭りプレ（焼き鳥試し焼き） ・外出プログラム（エキスポシティ）
3月	・第三者委員会（メンバーへの報告）　・ハートふれあい祭り　・お疲れ様会

2022 年 度　研 修 参 加 実 績

事業所名：　のぞみ共同作業所 （生活介護）

氏名	開 催 日	研 修 時 間	研 修 テ ー マ	①人権	②事業	③資格	④管理者	⑤新人	⑥SW	⑦法律	⑧その他	備　考
三品遥	4月15日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	のぞみ福祉会の歴史と理念					○				法人内新人研修
三品遥	4月22日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	吹田の社会資源					○				法人内新人研修
三品遥	4月25日	10 ： 00 ～ 16 ： 00	新人職員のためのサービスマナーセミナー					○				大阪府社会福祉協議会主催
三品遥	5月13日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	地域生活を支える福祉サービスの仕組み					○				法人内新人研修
篠原早紀	5月17日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	セルフケアチェックと虐待防止について								○	事業所内研修
三品遥	5月17日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	セルフケアチェックと虐待防止について								○	事業所内研修
勝本光子	5月17日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	セルフケアチェックと虐待防止について								○	事業所内研修
三品遥	5月27日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	地域生活を支える福祉サービスの仕組み					○				法人内新人研修
三品遥	6月10日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	記録の意味と目的					○				法人内新人研修
入澤隆一	6月21日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	虐待防止について	○								事業所内研修
篠原早紀	6月21日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	虐待防止について	○								事業所内研修
三品遥	6月21日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	虐待防止について	○								事業所内研修
三品遥	6月24日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	事業管理に関すること					○				法人内新人研修
三品遥	7月1日～31日	： ～ ：	精神保健福祉業務従事者研修　ベーシック研修B						○			大阪府こころの健康総合センター主催(オンライン)
三品遥	7月8日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	虐待防止について					○				法人内新人研修
篠原早紀	7月19日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	個別支援計画について		○							事業所内研修
三品遥	7月19日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	個別支援計画について		○							事業所内研修
勝本光子	7月19日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	個別支援計画について		○							事業所内研修
三品遥	8月5日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	就業規則について					○				法人内新人研修
三品遥	8月19日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	法人組織や経営の仕組み					○				法人内新人研修
三品遥	9月2日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	利用者の話を聞く力					○				法人内新人研修
入澤隆一	9月20日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	防災について								○	事業所内研修

篠原早紀	9月20日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	防災について								○	事業所内研修
三品遥	9月20日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	防災について								○	事業所内研修
三品遥	10月14日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	職員との交流と研修の振り返り					○				法人内新人研修
入澤隆一	10月18日	14 ： 00 ～ 15 ： 00	セルフケアについて	○								事業所内研修
篠原早紀	10月18日	14 ： 00 ～ 15 ： 00	セルフケアについて	○								事業所内研修
三品遥	10月18日	14 ： 00 ～ 15 ： 00	セルフケアについて	○								事業所内研修
勝本光子	10月18日	14 ： 00 ～ 15 ： 00	セルフケアについて	○								事業所内研修
入澤隆一	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○								
篠原早紀		： ～ ：	虐待と職員の疲弊について	○								後日視聴
勝本光子		： ～ ：	虐待と職員の疲弊について	○								後日視聴
入澤隆一	12月20日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	1年を振り返って								○	事業所内研修
篠原早紀	12月20日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	1年を振り返って								○	事業所内研修
勝本光子	12月20日	13 ： 30 ～ 15 ： 00	1年を振り返って								○	事業所内研修
入澤隆一	3月24日	15 ： 00 ～ 18 ： 15	法人内研修ハラスメントについて	○								法人内研修
篠原早紀	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 30	法人内研修ハラスメントについて	○								法人内研修
三品遥	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 30	法人内研修ハラスメントについて	○								法人内研修
三品遥		： ～ ：	法人内研修ハラスメントについて	○								法人内研修（後日視聴）

2022年度　　のぞみ工作所(自立訓練(生活訓練)) 事業報告

1.事業所の状況　　2023/3/31現在　　定員：　　20 名

年齢別利用者数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	0	0	2	1	0	0	3
女性	0	3	0	0	2	0	5

利用期間別利用者数

	6か月未満	6～12か月未満	1年～1年6か月未満	1年6か月～2年	2年以上	合計
男性	0	1	0	0	2	3
女性	1	0	0	1	3	5

障がい種別ごとの利用者数

	精神	知的	身体
男性	3	0	0
女性	5	0	0

開所日数と利用実績

	年間合計	年間平均
開所日数	243	20.3
延べ利用者数	2000	166.7
（うち在宅支援）	56	4.7
訪問の実利用者数	10	0.8
訪問回数	13	1.1
新規利用者数	4	
退所者数	15	
相談・見学件数	12	
体験利用者数	6	

利用希望、新規利用および退所者の状況

新規利用者の状況	①新規利用者：生活訓練事業の終了が検討された9月以降は積極的な募集活動を停止した。事業終了が決定した11月からは新規利用はお断りした。その後も3件の新規紹介があり、うち1件は3月までの短期利用でも紹介したいという内容だった。 ②紹介経路：吹田市こども・若者総合相談センター、計画相談事業所（法人外）、亥の子谷障がい者相談支援センター ・紹介経路は固定され、各機関からは四半期ごとに新規利用の紹介があった。
退所者の状況	①目標達成による退所：移籍先（就労移行3名（法人内2名、外1名）、就労継続Ａ型2名、その他1名） ・本年2月までの間に６名が目標を達成して、希望された新しい場所へステップアップをされた。 ②事業所閉所にともなう退所：退所後の経路（就労1名、就労移行3名、就労移行(予定）2名、就労継続B型2名） ・3月末まで在籍された利用者のうち6名は4月からあたらしい環境でリカバリーへの取り組みを開始されている。2名は利用する事業は決まっているが、実際に利用する事業所選びについてそれぞれの相談支援者と丁寧に行っている。 ③本年度は1名の方が暫定支給期間終了後に「事業内容が希望と合わなかった」との理由で退所された。

苦情受付および事故の状況

	年間合計
苦情件数	0
事故件数	2

事故の内容

本年度に発生した以下の事故については、検討した対策を徹底した。ミーティングでの周知とスタッフの実践により、利用者全員の意識が高まり、事業所での新しいルールとして早期に定着した。

1．加熱が不十分な食肉の提供と注意喚起の不徹底

温度計による確認を徹底するとともに、盛り付け前に調理プログラムを担当したスタッフが、調理をした利用者ともに加熱の状態の確認を行うことで事故防止に努めた。

２．給湯器に残った熱湯での利用者の火傷

給湯器で熱湯を使用する際は、そばにいる方と設定温度のリセット、残った熱湯の排出までを二人以上で声出し確認をすることを徹底した。

２．事業収支

本年度は大幅な赤字決算となった。年度当初から、

①年度の前半に利用年限を迎える利用者が複数いる

②利用年限内の早期卒業を希望する利用者が多人数いる

③昨年度好調だった利用実績と昨年度末に非常勤職員の退職したことにより市の重度加算が請求できない

の３点の理由から昨年度を下回る予算を想定し、対策を検討していた。

具体的には、

①年間6名以上の新規利用者の確保

②うち3名は上半期での利用開始

③利用半年以上の利用者の通所率向上

④年間15日程度の休日開所

である。それに対し、４～6月期に３名の新規利用があり、年度前半は目標値に沿った収入が確保できていた。これは、これまでの活動で固定することができた紹介ルートから順調に新規利用の紹介があったことが大きい。しかし、事業所の閉所が検討されて以降、新規利用の募集を停止したことにより、上記対策による利用者減への対応ができなくなったことに加え、職員不足による休日開所の日数減と職員欠如減算により、最終的に赤字決算となった。そのような中でも、1月期までの延べ利用者数ベースでは収益分岐ラインより上方で推移しており、下半期に目標としていた3人以上の新規利用者の獲得と休日開所を実施していれば例年並みの黒字決算が実現していたことになる。実際に新規利用の募集を停止した10月以降も、これまで密に支援を連携してきた機関からの新規利用の紹介は継続的にあった。SNSやパンフなどの営業活動だけではなく、協働することで理解してもらうという事業方針がこの数年間で実を結び、のぞみ工作所の生活訓練への地域からのニーズは確実に根付いていた。

３.3月末在籍者の進路

相談支援事業所など関係機関との連携を密にして、事業所の閉所により退所を余儀なくされた方全員の移行支援を行った。1月時点での利用者12名のうち、3名はすでに移行期にあり、互いに共有した計画通りに希望する将来への移行支援を行った。本人のタイミングではなく、事業所閉所により退所を余儀なくされた方は8名だった。まず、1月中は事業所が閉所することについての不安を打ち明けていただくことに時間を費やし、それ以降は希望と課題の明確化、そして、それに応じた移籍先探しに取り組んだ。「家族のリカバリーを支援する」という事業方針から、この過程では利用者本人だけでなく、家族にも面談に同席していただき、電話での連絡も密にして行った。関係機関の心強い協力もあり、3月中にほぼ全員の方が、新しい事業所の見学と体験利用を終え、そのうち4名の方が移行の手続きを終えることができた。5名の利用者は3月末時点では移行の手続きを終えられず関係機関に支援を引き継いだが、そのうち3名は4月に新しい事業所に定着し順調に利用を続けておられる。ほかの2名も移行の準備を丁寧に進めておられる。

４．のぞみ工作所閉所への取り組み

１．支援内容

1月に事業所の閉所を周知した時点では、進路が確定した段階で早期の退所を促す方針であった。それは3月末まではのぞみ工作所という「帰られる場所がある」という安心感を土台にして、新たな環境への定着を支援するためだった。しかし、すでに移行期にあった利用者を除くすべての利用者が3月末まで利用を続けることを希望された。利用者には、相談支援事業所などに移行支援を任せるのではなくすべての過程に寄り添うこと、そして、最後の開所日まで、これまでと同じ生活訓練を提供することで「生活の楽しさを知る」日々を保障することを約束し、最後の日まで実行した。この約束を実行することで、のぞみ工作所閉所についての不安を、新しい環境へステップアップする希望へ変える作業に寄り添うことを意識した。

２．利用者の思いと卒業メンバーの思い～のぞみ工作所のアフターフォロー

1月以降、多くの卒業メンバーが来所された。就労されている方々も、仕事を終えた夜間や出勤前の早朝に来られていた。全員が帰る場所をなくすことへの不安と落胆を話された。それは今回、退所する利用者のすべてが抱える不安と一致していた。のぞみ工作所は「在籍中に幸せになるのではなく、生活訓練で力をつけたことで卒業後に幸せになる」ことを支援方針にしてきた。そのため、卒業メンバーへのアフターフォローをプログラム化して実施してきた。在籍する利用者は、卒業メンバーが気軽に来所し、一緒に過ごすことでまたエネルギーを補充していく様子を見て、将来の自分を重ね合わせていた。その希望が潰えることの不安に対し、返す言葉が思いつかなかったことが悔やまれる。

３．家族の思い

事業所閉所については連絡会での周知とともにご家族あてには文書と電話でお伝えをした。また移行支援における面談にはご家族にも同席をお願いした。お話しする機会を得たすべてのご家族からは事業所閉所にともなう不安の声をお聞きした。一番、多かった声はのぞみ工作所でリカバリーしていく本人を見ることで得た将来への希望と安息の日々を失うことについての不安だった。特に利用開始間もない利用者のご家族はその不安が大きく、それに対しては詫びることしかできなかった。ただ、移行支援のすべての過程にご家族も関与してもらうことで、利用者とともに変化を前進と捉えていただけるように支援を行った。

また、卒業メンバーのご家族もたくさん、来所してくださった。それぞれ、利用者が活き活きと過ごしている現況を報告してくださり、のぞみ工作所での生活訓練の時間を肯定的に語ってくださった。利用者だけでなく、ご家族にとってものぞみ工作所が帰ることができる場所になれていたことに、「家族のリカバリーを支える」という事業方針が間違えていなかったことを知ることができた。

４．連携機関からの思い

支援を連携する他機関からは、在籍する利用者への支援についての心配以上に、「リカバリーのための支援を待つ地域の利用者とっての『社会復帰へのツール』がなくなった」という言葉をいただいた。連携を深める中で、それぞれがのぞみ工作所の価値を見出し、それを目の前の当事者のために、そして地域のためにどう使うかを考えてくださっていた。のぞみ工作所がみなさんにとっての社会資源となり得ていただけに、それを閉じてしまうことに責任を感じた。

５．地域のみなさんの思い

地元の自治会、商店街からはのぞみ工作所がそれぞれの活動の中で役割を担ってきたことについて「積極的に地域に入り込んでくれて、少し構えてしまっていた気持ちが変わり、福祉の事業所を身近に感じることができた」との言葉をいただいた。福祉委員会、公民館や体育館からは行事に参加することで地域を盛り上げたことに感謝の言葉をいただいた。印象的だったのはご近所のみなさんから「高浜町にいてくれて良かった」という言葉をいただいたことである。この言葉が「地域交流ではなく、地域に溶け込む」というのぞみ工作所が一番、大事にしていた事業方針の成果を表している。

6．職員の状況

職員会議の実施状況

名称	回数	内容及び状況
個別支援計画	４８回	個別支援計画のモニタリングとそれを受けての計画作成
職員ミーティング	12回	各自が担当する業務の報告と相談

法人内のプロジェクト担当

名称	担当者	回数	内容
管理職会議	辻本	24回	法人運営についての会議
のぞみ家族会事務局	橋本	12回	役員会、定例会、のぞみ便り編集などの支援
のぞみスクラム会	布原	7回	虐待防止への取り組み、のぞみ便りの編集などの会議、のぞみ便りの編集作業

対外的な活動

名称	担当者	回数	内容
大阪府生活訓練ネット	橋本・布原	4回	生活訓練事業所の連絡活動・研修
同　事務局	橋本	8回	同事業の企画運営
同　研修実行委員会	辻本	7回	生活訓練実践研修の企画
吹田市障害者の働く場事業団	橋本	12回	授産製品の販売促進に関する会議
吹田市障害者の働く場事業団　就労部門	辻本	2回	役務作業に関する会議

2022年度 事業実施状況

	事業所活動
定例	店舗運営・昼食会（毎日）、ポスティング（毎月）、JR北側遊歩道除草作業（年3回）、連絡会（月1回）、ヨガ（月2回）、卓球（月2回）、スクラッチアート・ビーズアクセサリー・ポストカード・頭の体操・ペン字・書道・茶道・家事検定・デッサン教室・縫物教室（月1回）、栄養勉強会（月2回）、商店街組合配布物担当（月2回）、自治会古紙回収活動（月1回）
4月	季節プログラム：お花見ウォーキング 地域活動：スカイクロス大会 和菓子つくり体験
5月	文化活動：野外デッサン（万博公園バラ園） 休日プログラム：ボーリング大会
6月	季節プログラム：夏越の大祓（なごしのおおはらえ） 休日プログラム：ナイトプログラム・ホタル観賞
7月	映画観賞会『天気の子』 季節プログラム：七夕飾りつけ
8月	映画観賞会『君の名は』
9月	映画観賞会『阪急電車』 季節プログラム：ナイトプログラム・花火大会 地域活動：グランドゴルフ大会
10月	映画観賞会『舟を編む』、野外デッサン(中の島公園) 季節プログラム：秋の体力アップ週間・交野山登山
11月	施設外訓練：（京都・紅葉狩りと美術鑑賞）、映画館で映画鑑賞『すずめの戸締り』
12月	歯科健診 季節プログラム：クリスマス男前カフェ、テーブルマナー教室(大乃や) ボーリング大会、大掃除
1月	季節プログラム：初詣、えびす詣り　　地域活動：自治会防災訓練 第三者委員来所 施設外訓練：映画館で映画鑑賞『THE FIRST SLAMDANK」
2月	施設外訓練：伊勢神宮日帰り旅行、大坂城公園梅見とアクアライナー乗船
3月	地域活動：ハートふれあい祭り 施設外訓練：琵琶湖ミシガン乗船、京都・岡崎お花見、さよなら工作所杯ボーリング 全員の卒業式

2022　年　度　　研　修　参　加　実　績

事業所名：のぞみ工作所

氏名	開　催　日	研修時間	研　修　テ　ー　マ	①人権	②事業	③資格	④管理者	⑤新人	⑥SW	⑦法律	⑧その他	備　　考
辻本考太	5月16日	18 ： 00 ～ 19 ： 30	メンタルヘルス研修								○	
橋本ゆかり	5月16日	18 ： 00 ～ 19 ： 30	メンタルヘルス研修								○	
橋本ゆかり	5月20日	18 ： 00 ～ 20 ： 00	大阪生訓ネット「自分自身を生活訓練に活かしてみる」		○				○		○	
布原義規	5月20日	18 ： 00 ～ 20 ： 00	大阪生訓ネット「自分自身を生活訓練に活かしてみる」		○				○		○	
橋本ゆかり	6月29日	15 ： 00 ～ 16 ： 10	吹田市社協施設連絡会「福祉施設における個人情報について」	○						○		
橋本ゆかり	8月19日	18 ： 00 ～ 19 ： 00	大阪生活訓練ネット「他事業所に聞いてみたい、あんなこと、こんなこと」		○							
橋本ゆかり	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	疲弊を回避し利用者と職員の意識を高めるには	○					○			
橋本ゆかり	11月18日	18 ： 00 ～ 20 ： 00	大阪生活訓練ネット「こんなイベントやっています		○							
辻本考太	12月27日	20 ： 00 ～ 22 ： 00	大阪府虐待防止研修	○								
辻本考太	1月28日	13 ： 00 ～ 17 ： 00	自立訓練(生活訓練)実践技術研修会「変わること、変わらないこと」		○				○			
橋本ゆかり	1月28日	13 ： 00 ～ 17 ： 00	自立訓練(生活訓練)実践技術研修会「変わること、変わらないこと」		○				○			
橋本ゆかり	2月17日	18 ： 00 ～ 20 ： 00	大阪生活訓練ネット「支援ツール」		○							
辻本考太	4月1日	13 ： 00 ～ 15 ： 00	パワーハラスメント防止研修				○			○	○	
橋本ゆかり	4月1日	13 ： 00 ～ 15 ： 00	パラーハラスメント防止研修							○	○	
		： ～ ：										
		： ～ ：										
		： ～ ：										
		： ～ ：										
		： ～ ：										
		： ～ ：										
		： ～ ：										

2022年度　　ブルーリボン(生活介護) 事業報告

1.事業所の状況　2023/3/31 現在　定員：　10 名

年齢別利用者数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	0	0	0	5	1	3	9
女性	0	0	4	5	2	5	16

利用期間別利用者数

	１年未満	１年～３年未満	３年～５年未満	５年～１０年	１０年以上	合計
男性	1	1	0	5	2	9
女性	0	1	6	3	6	16

障がい種別ごとの利用者数（重複あり）

	精神	知的	身体
男性	8	0	1
女性	13	4	0

支援区分別利用者数

	区分２	区分３	区分４	区分５以上
男性	3	5	1	0
女性	1	11	4	0

開所日数と利用実績

	年間合計	年間平均
開所日数	257	21
延べ利用者数	2,918	243
（うち在宅支援）	5	
月初在籍者数		
新規利用者数	5	
退所者数	3	
相談・見学件数	10	
体験利用者数	4	

利用希望、新規利用および退所者の状況

見学者の状況	2022年度は4名の見学・体験者がおられた。その内1名の方が8月から正式利用になっている。また、3月からも1名見学と体験を開始され、2023年度の４月以降ではあるが、正式利用になっている。 通所に繋がらなかった方については、現在の体調と今後は就労したいという希望をふまえて他の事業所を望まれたり、体験する中で今は日中の活動の場は必要ないと結論を出されたりしている。 現在のブルーリボンでは、利用者の高齢化や他市のグループホーム利用を検討されている方もおられ、利用者の入れ替わりが考えられる。新規利用者の受け入れを進めるとともに、現在利用中の方々が安全に通所できる環境を整えておくことが課題であると感じる。

苦情受付および事故の状況

	年間合計
苦情件数	0
事故件数	1

苦情及び事故の概要、その後の対応について	2022年度は授産（喫茶、コーヒー染め）でご意見をいただく機会があった。苦情として対応を求められた件ではないが、いただいたご意見をもとに利用者、スタッフでミーティングを重ねてきた。同じような苦情をいただくことがないよう対策を立て、今後もブルーリボンの商品を手に取り喜んでいただける工夫を重ねていきたい。 また、事故については、利用者が急な体調不良のため外出先（レクレーション中）で倒れてしまうことがあった。職員は余裕をもった体制であったため、職員2名が当該利用者に付き添い、残りの職員で他利用者と帰宅をし、もう1名の職員が車を取りに行き外出先からご自宅へと送り届けている。本人の強い希望もあり、寝不足の状態でも午前からレクレーションに参加されたため、帰るころにはかなりの疲れを感じておられたと思われる。ご自身では大丈夫と思って参加されていたが、実際は体力が持たず、ショックを受けておられた。レクについてはみんなに無理のない内容を企画し、本人も体調に合わせた参加をしてもらえるよう声をかけている。

2.生産活動

	年間合計	年間平均
収入	2,457,987	204,832
支出	1,779,110	148,259
支払工賃総額	1,540,754	
平均工賃月額		5,153
平均工賃時給		327

授産種目①	喫茶・菓子製造販売
授産種目②	コーヒー染め
授産種目③	さたけん家・五月が丘ふれあいサロン
授産種目④	佐竹台近隣センター共同トイレ清掃

3.事業所での活動内容

・授産事業（コーヒー染め、喫茶）

【喫茶】

2022度は喫茶の業務を希望し、実習を始める利用者が多い1年であった。これまで、喫茶の仕事は頻度や時間帯などハードルが高く感じるものであったが、元々喫茶担当であった利用者も加齢や体調不良により勤務時間が短くなっていた。これまでのような通所日数などの縛りをなくすことで、今の喫茶担当の利用者だけでなく新たに担当される利用者にも、負担なく喫茶の仕事に取り組んでいただけるよう、提供する仕事内容など工夫をしている。しかし、誰でもできるという形にするのではなく、「喫茶の仕事の先には商品を決められた日に楽しみに待ってくださっている方がいる」ということを意識し、責任感を持って取り組んでいる。今後は増えている喫茶利用者の仕事を確保し続けるということも意識し、製菓の仕事だけでなく店舗の再開も目標に取り組んでいきたい。

【コーヒー染め】

ブルーリボンの作品展を2022年度も開催することができた。場所をブルーリボンで行うことで、コーヒー染め製品はもちろん、クッキーやケーキも出すことができ、まさに「ブルーリボンの作品展」になったと振り返る。また、利用者自身が絵や刺繍をしデザインしたものを縫製して仕上げまで担うことが増え、数年が経った。職員に仕立ててもらったものではなく、これは自分の作ったものだと自信をもってお客さんに紹介している姿を多く見ることができた作品展となった。普段の作業を通し、利用者の様々なチャレンジを応援することができているが、やはり普段の作業中の積み重なりを見られるのは作品展であると考える。

複数の利用者が縫製に携われるようになったことは喜ばしい一方で、クオリティ維持の難しさを痛感することも多かった。そのほか接客等にも課題があるが、次回はそれらの改善点を生かし、より良い作品展を目指したい。

・五月が丘ふれあいサロン

2022年10月より、五月が丘北にオープンした五月が丘ふれあいサロンに団体ボランティア登録させていただき、月に1度喫茶当番を担当するようになった。また普段から製菓を納品させていただき、地域の方々から好評をいただけたことで、喫茶利用者も直接販売の場面に立たれるようになり、サロンで直接製菓への感想を聞く機会が増え、やりがいに繋がっている。

また普段からお客さんとしてサロンを利用させていただく機会も増えている。歩いて行けるちょうど良い距離にあり、低価格で美味しドリンクを飲むことができ、利用者にとっても地域の大切な居場所になってきている。ふれあいサロンを通じ製菓の注文をいただける機会が増えるなど新たな繋りができてきている。コロナ禍で制限をせざるを得なかった交流を広げていけるよう、これからも力を入れて取り組んでいきたい。

・チャンゴ＆発表の場

利用者の声から始まった朝鮮半島の伝統楽器であるチャンゴの演奏が継続したプログラムになり、地域のイベントでも発表させてもらうなど広がりを見せた。きっかけは一人の利用者と職員とのやりとりから、「楽しみながらそれぞれの文化に親しむ」という目的があった。しかし、回を重ねるごとに参加される方が元々の目的に加えて、各自がやりがいをもって参加されるようになったと感じる。発表の場が増えることで自身の表現の手段の一つとして、利用者同士お互いに意見を出し合いながら、いかに観にきてくれる方に楽しんでもらえるかと考えておられる。参加される利用者が様々な意味を見出している中で、それぞれの主体性を損なうことがないようにしつつ、元々のきっかけは大事にしていきたい。根源にあるのは文化や年齢、障害の有無に関わらずそれぞれの違いを認め合うこと、交流という点だと感じている。職員としては発表の場や機会が広がっていく中で、表には出さずとも意識しつつ関わりこれからも続けていきたい。

4.職員の状況

職員会議の実施状況

名称	回数	内容及び状況
生活介護ミーティング	11	研修報告・今後の事業の在り方・年間行事・ケースカンファレンス等
ブルーリボンミーティング	20	研修報告・今後の事業の在り方・勤務予定・ケースカンファレンス等

法人内のプロジェクト担当

名称	担当者	回数	内容
管理者会議	久留宮・大口	39	のぞみ福祉会の運営に関すること
のぞみスクラム会	吉武・久留宮	24	のぞみ福祉会の取り組みについて・のぞみ便り編集

対外的な活動

名称	担当者	回数	内容
共同受注会議	吉武	2	吹田市障がい者働く場事業団授産部門内のクッキー販売
亥子谷コミュニティ協議会	久留宮	8	地域で高齢者・障がい者が安心して暮らせる社会づくり
吹田市障がい者の働く場事業団授産部門会議	吉武・西島	12	吹田市障がい者働く場事業団の運営に関すること

2022年度 事業実施状況

	事業所活動
定例	角谷クリニック・チャクラ・HAPPY&SMILE・サフランなどケーキクッキー販売・配達(各月1回程度)、コーヒー染め(毎日)、さたけん家(週1回)、佐竹台近隣センタートイレ掃除(週3回)、連絡会(適時)、朗読工房(月1回)、音楽の会(月１回)、お昼ごはんでっせぇ(月1回)、パソコンサロン(適時)、ヨガ(月1回)、BRmtg(月1回)、就労mtg(月1回)、コーヒー染めmtg(月1回)、レクリエーション(適時)、のゼミ(月1回)、看護師による健康勉強会
4月	花見（万博記念公園）、
5月	内本町コミュティセンターコーヒー教室、染め部材買い出し、「言の葉の展覧会」観覧、健康勉強会（ボッチャ）
6月	ブルーリボン音楽会（韓国の太鼓をたたこう）、サフラン作品展見学、内本町コミュニティセンター祭り出店、防災訓練（阿倍野防災センター）
7月	ブルーリボンコーヒー染め作品展「染め・夏もよう～あなたと染め、新しい出会い～」 内本町コミュティセンターコーヒー教室、コーヒー染め作品展打ち上げ、
8月	楽器で遊ぶ会、健康勉強会（ボッチャ）、ハッピー&スマイル「染め物月間」出品
9月	ブルーリボン防災プログラム、健康勉強会（椅子ヨガ）、レク（舞洲スポーツセンター）、出張コーヒー教室（のぞみ共同作業所）、
10月	歯科検診、楽器で遊ぶ会、健康勉強会（お味噌汁作り）、万博公園散策、ハッピー&スマイル、「のぞみ福祉会月間」出品、
11月	レク（王子動物園）、いのっこ祭り出店、福祉のひろば出店、健康勉強会（ボッチャ）、
12月	市役所ロビー展見学、五月ケ丘ふれあいサロン当番、輪にネット、ブルーリボン忘年会、
1月	五月ケ丘ふれあいサロン当番、椅子ヨガ、初詣（住吉大社）
2月	大和大学体験談発表、休日調理レク（お好み焼き）
3月	ハートふれあいまつり出店/ステージ出演、吹南地区福祉ふれあいまつり出店、五月が丘お楽しみ会、

2022　年　度　　研　修　参　加　実　績

事業所名：ブルーリボン

氏名	開　催　日	研　修　時　間	研　修　テ　ー　マ	①人権	②事業	③資格	④管理者	⑤新人	⑥SW	⑦法律	⑧その他	備　　考
大口圭香	6月29日	15 : 00 ～ 16 : 00	個人情報保護について	◎								
西島彩夏	4月15日	16 : 00 ～ 17 : 30	のぞみ福祉会の歴史と理念					◎				のぞみ福祉課新人件数
西島彩夏	4月22日	16 : 00 ～ 17 : 30	吹田の社会資源					◎				のぞみ福祉課新人件数
西島彩夏	5月13日	16 : 00 ～ 17 : 30	地域生活を支える福祉サービスの仕組み　A					◎				のぞみ福祉課新人件数
西島彩夏	5月27日	16 : 00 ～ 17 : 30	地域生活を支える福祉サービスの仕組み　B					◎				のぞみ福祉課新人件数
西島彩夏	6月10日	16 : 00 ～ 17 : 30	記録の意味と目的					◎				のぞみ福祉課新人件数
西島彩夏	6月24日	16 : 00 ～ 17 : 30	事業管理に関すること					◎				のぞみ福祉課新人件数
西島彩夏	7月8日	16 : 00 ～ 17 : 30	虐待防止・ストレスチェック					◎				のぞみ福祉課新人件数
西島彩夏	9月7日	14 : 00 ～ 17 : 00	共生社会の実現に向けて　～重層的支援体制の取り組み～						◎			
西島彩夏	10月3日	18 : 30 ～ 20 : 30	様々な障がいについての学習会	◎					◎			吹田市障害福祉サービス日中事業所連絡会
吉武愛美・西島彩夏	11月11日	19 : 00 ～ 21 : 00	虐待と職員の疲労について								○	法人内研修
久留宮祐樹	12月6日、7日	9 : 30 ～ 17 : 00	サービス管理責任者等実践研修		◎	◎	◎					
吉武愛美・西島彩夏	11月14日	18 : 00 ～ 19 : 30	第２さつき障がい者作業所について知る						◎			
吉武愛美・西島彩夏	1月16日	18 : 00 ～ 19 : 30	北摂視覚障害者センターほくほくについて知る						◎			
吉武愛美	1月18日	13 : 30 ～ 16 : 30	親なき後について知る							◎	◎	
吉武愛美	1月26日	13 : 30 ～ 16 : 00	こころサポーター養成講座	◎								
吉武愛美	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	法人内ハラスメント研修について（職員向け）								○	法人内研修
西島彩夏	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	法人内ハラスメント研修について（職員向け）								○	法人内研修
久留宮祐樹	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	法人内ハラスメント研修について（職員向け）								○	法人内研修
大口圭香	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	法人内ハラスメント研修について（職員向け）								○	法人内研修
久留宮祐樹	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	法人内ハラスメント研修について（職員向け）								○	法人内研修
大口圭香	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	法人内ハラスメント研修について（職員向け）								○	法人内研修

2022年度　　きらめき(生活介護) 事業報告

1.事業所の状況　2023/3/31 現在　定員：　10 名

年齢別利用者数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	0	2	3	4	7	6	22
女性	0	0	1	1	3	1	6

利用期間別利用者数

	１年未満	１年～３年未満	３年～５年未満	５年～１０年	１０年以上	合計
男性	2	6	2	6	6	22
女性	0	0	1	1	4	6

障がい種別ごとの利用者数

	精神	知的	身体
男性	21	1	0
女性	6	0	0

支援区分別利用者数

	区分２	区分３	区分４	区分５以上
男性	3	16	3	0
女性	0	4	2	0

開所日数と利用実績

	年間合計	年間平均
開所日数	252	21
延べ利用者数	2872	239
（うち在宅支援）	72	6
在籍者数	28	
新規利用者数	2	
退所者数	2	
相談・見学件数	6	
体験利用者数	12	

利用希望、新規利用および退所者の状況

見学者の状況	2022年度は、相談支援事業所ぽっぽ、亥の子谷障がい者相談支援センター、こころのクリニック、法人内事業所から紹介があったことと、過去の利用者が再度利用を希望されるケースがあった。しかし全般的に新規利用までつながるケースが少なく、次年度は新規の利用を増やしていけるようにしたい。退所者は2名とも別事業への移行である。

苦情受付および事故の状況

	年間合計
苦情件数	12
事故件数	2

苦情及び事故の概要、その後の対応について
※苦情 ・職員の電話対応に関すること数件 ・法人内他事業所の職員の発言に関すること ・きらめきの電話がなかなかつながらないこと数件 ・きらめきから電話でアプローチをしたことに対する苦情 ・職員の言葉使いや受けごたえに関すること数件 ・受領のお知らせをいただけていないという苦情 ・パソコンをサロンに持ち込んで業務をしていることに関すること ・異性の利用者宅への訪問に関すること ・サロン内をもう少し静かな環境にしてほしいという内容 ・開所中に外出してしまう利用者に関すること ⇒具体的に解決に取り組むケースもあれば、傾聴にて対応するケースもあった。
※事故・ヒヤリハット ・玄関先での利用者の転倒…玄関先の整理に取り組む ・食事会中に肉をのどに詰まらせる利用者がいたこと…すぐに吐き出してもらうように対応、その後は食事の際の配慮を行うことに

2.生産活動

	年間合計	年間平均
収入	125,400	10,450
支出	24,173	2,014
支払工賃総額	102,000	8,500
平均工賃月額		1,556

授産種目①	佐竹台地区マンション清掃業務
授産種目②	バザー出店

3.事業所での活動内容

○利用者の状況

2022年度の総利用者数は、2872人で1か月平均は239人、1日平均は約11.4人であった。元ブルーリボンの利用者で実質きらめきをメインで利用されていた利用者の登録をきらめきに移したこともあって、毎月200人を超えることは当然のこととなり、さらに2022年度は過去最高の利用者数となった。きらめきでは定例のプログラムよりも、毎月利用者のニーズに合わせた活動を行っていることが多く、1か月の予定を立てる職員ミーティングでは利用者のニーズに合わせながら、利用者の生活意欲の向上や充足感に資する活動を、アイデアを絞り出しながら作り出してきた。2022年度はその成果が出始めており、それがきらめき内だけでなく、五月が丘地域の中でも大きな役割を担えるほどに成長してきたと感じている。しかし、2022年度の新規の利用者はそれほど多くはなく、現利用者がそれぞれの最も利用ができる範囲で来てくれている。2023年度からは職員の増員ができたことから、今まで以上の取り組みができるだろうし、していくべきであると考えている。そのなかで、まだ支援につながっていない地域の当事者を、今後は新規の利用者としてもっと受け入れていくことが求められていると感じている。

○個別の支援をグループ化していく取り組み

2022年度は個別の支援が個別にとどまらず、他の利用者を巻き込んでグループの活動として広がったことが顕著だった。

年間の事業報告でもお伝えしたように、ピンポンや麻雀、ハートふれあい祭りでの中島みゆきの会などがあげられる。また木曜日に行っている個別のプログラムも「Aさんのための活動なのでメインはAさんだけど、一緒に協力して楽しむ」という活動の仕方がごく自然に他の利用者にも広がっている。

このような関わりを通して、写真部や芸術部や木曜日の音楽の会など集団でのプログラムには参加しづらい方も、個別での対応が他の利用者を巻き込んでグループの活動になっていくということを実現することができた。人は人との関わりでしんどくなるが、人との関わりの中で回復していくということを「のゼミ」でも教わり、その通り孤立したままではリカバリーへ向かっていきづらいと実感している。上記のAさんも当初は木曜日午前の個別プログラムのみの参加であったが、それを続けた結果、今は違う曜日にも通所することができている。またきらめきにとどまらず、公民館活動にも参加されたり、遠出のレクにも参加することができるまでになった。

また、ハートふれあい祭りで披露した中島みゆきの会の取り組みは、その参加者の顔ぶれから、ここまで取り組めたということは、驚くたほどの成果だったと思う。支援者としても「この利用者さんたち」という顔ぶれでの出演が本当に嬉しかった。「きらめきの音楽の会は時間が合わせることができない。」「そもそもあの人数で何かやるのは難しい。」「自分は人前には出ません。」といった利用者たちが、ハートふれあい祭りに向けてきらめきで練習を頑張り、当日も誰1人休むことなく全員で披露できた。個別で取り組んでいた「中島みゆきの会」に意外な人たちが参加し、さらには「これで終わるのはもったいないから、次に向けて頑張りたい」ということにもなったのは本当に素晴らしいことだった。

こうした取り組みはもちろん2023年度も継続していきたい。2023年度は職員の数も増えることから、今以上に活動の幅が広がっていくだろうと思う。

〇地域の力を活用 （創作活動・写真部において）
今年度はアムールさんに入っていただき、創作活動を強化できた1年だった。きらめきで創作活動を取り入れる際、是非アムールさんにも協力をいただきたいと、アムールさんにプレゼンを行い、アムールさんにも協力いただくことの承諾を得ながら、その後はコロナ禍で実現させることができなかった。しかし2022年度に入り、日々の創作活動の中に、2か月に一度創作の日をきちんと設け、その時間にアムールさんに入っていただくプログラムを整備することができた。スタッフだけではできなかったことや分からなかったことが、アムールさんに入っていただき、アイディアを出していただき、作り方を教えていただくことで創作の幅が広がっていった。また、アムールさんが来るからと、その日に合わせてこられる利用者もおられる。展示会の中でも作品の幅が広がったことで、より多くの展示や販売を行うことができた。来られた方からも年々バーションアップしていると嬉しい言葉をいただいた。写真部にはボランティアさんが一緒に活動してくれているが、2022年はついに創作でも地域の力を取り入れることができた。それは利用者の生活の充実に資するものへとつながっている。今後も展示会や販売のために創作をするためだけではなく、利用者の生活を充実させるものの一つとしてこうした創作活動を行っていきたい。
また写真部においては、これまでともに活動してきたボランティアさんの力添えもあり、念願だった「2023年きらめき写真部カレンダー」を作成することができた。このカレンダーは作成した分はすべて販売することができた。何より1年間、ずっときらめきの写真部の写真を見ていただくことができるものであり、利用者の思いがこもっているだけでなく、利用者が撮影会でフィルターを通してみてきた光景を、いろんな人たちと共有できる機会にもなる。個展などの一過性の活動ではなく、常に誰かのそばにきらめき写真部の活動が身近に存在するという取り組みを、地域の力を借りながら実現できた1年だった。

〇地域の力を活用（様々なプログラムにおいて）
様々なプログラムにおいても、2022年度はたくさんのボランティアさんとつながることができた1年だった。利用者だけで取り組んでいた麻雀の活動は、連絡会で取り組み報告を行ったところ、一緒に活動したいと手を挙げてくれるボランティアさんが数名おられたことで、麻雀交流会を月1回行うことになった。利用者にとっても、地域の方と一緒に楽しめる時間を持てることで、毎月楽しみにしているプログラムとなり、ボランティアさんとの距離も麻雀を通して一気に近づけることができた。また社会福祉協議会主催ボランティア養成講座からは、きらめきに実習に来られた受講生3名が、その後もきらめきのボランティアとしてかかわりを続けてくれており、利用者にとっても新たにお話ができる人や、自分の価値を分かってくれる人が増えたと喜んでいる。利用者のニーズから生まれた自主的な活動を、その利用者間の活動に留めず、人とのつながりを実感できるようにボランティアなどがともに取り組める活動へと発展させ、人との関係づくりの中で利用者のリカバリーを実現できたのではと思う。

〇地域とともに協同する
2022年度も防災委員や福祉委員、連携会議と地域の方と一緒に活動を行ってきた。日々のプログラムに地域の方に入っていただくだけではなく、地域の方からイベント出演や展示会、写真撮影の依頼などをいただくことも増えた。これは日々の活動の中に地域の方が入ってくれていること、連絡会などできらめきの報告をし続けてきた成果だと思う。こうして地域の方から頼られることで、利用者自身の自信につながり、地域との関係に関しても抵抗がなくなって関係が築けてきている。また、地域の方からは、地域のイベントではきらめきの音楽部の演奏がないと成り立たないということも話していただいた。写真部の活動も展示会や報告を通す中で、スタンプラリーマップの写真掲載の写真を依頼していただいた。そのほかにも2023年度から新しく五月が丘福祉委員会の配食のお弁当の覆いのイラスト掲載が始まる。このような活動は地域の方とともに行ってきたことで得られるもので、地域の方の力の大きさを感じるとともに地域への理解促進にもつながっていると感じる。地域の皆さんに力を貸していただくきらめきだけではなく、地域とともに活動できるきらめきへと成長できた1年だった。

○Cさんとの取り組み
2022年度の事業報告でお伝えし続けた、Cさんとの取り組みについて。Cさんとは週3回の通所のたびに面談を行い、無事に1年間退院生活を継続することができた。振り返りの中で「去年はせみとり、大和大学の講義、ハートふれあい祭りの参加など、ステップアップした一年だった。」という感想も出ており、入院しない生活に対し最初は戸惑いも持ちながら、しっかりと一年過ごされたことを感じる。Cさんは過去には数年退院生活を続けていた経験もお持ちで、「それに比べると1年なんて短い。」という気持ちも出ているのだが、おそらくそのときの数年とこの1年では安定感が違うのではないかと感じる。この安定感がどこから来ているのかはCさんとよく話し合っていて、年齢を重ねてきたことで逆に落ち着きが増し、落ち着いたことで自分の病気を冷静に見れるようになり、こうして支援者が密に関わっていることや、きらめきの活動を通して利用者同士の良い関係性を構築できたことが大きな理由なのだろうと推測されている。Cさんとの関わりは2014年からなので、ようやくここまで来れたという気持ちだ。
Cさんとは引き続き2023年度も二人三脚で進んでいきたい。

○総括
2022年度は、これまでコロナ禍で人とのつながりが薄れていった中、改めてその人とのつながりを取り戻すことができた1年だったのではと思う。長く中止となっていた様々なイベントも復活し、人とのつながりの中で利用者が元気になっていく姿をたくさん見てきた。
きらめきでは、利用者の回復に最も必要なのは人とのつながりであり、孤独では回復ができないという思いを常に持ち続けている。これまで人とのかかわりの中で、大きく傷ついてきた利用者もたくさんおられ、人とのかかわりを拒む利用者もいる。そんな利用者の思いに寄り添いながらも、かかわりで傷ついてきた利用者にとっては、改めて人間らしい、人と人とのつながりこそが大切だと改めて感じている。また活動の中でも我々職員だけの持つ力だけでは提供できないことも、人とのかかわりの中でたくさん提供することができた。改めて人との繋がりがリカバリーにつながるという実践に取り組めたことと、その成果として、2022年度は多くの利用者に利用していただくことができたのではと感じる。
これらの取り組みを実現できたきっかけとして、管理者と職員間の面談を取り入れた成果が大きかったのではと考えている。2週間に1回、または1週間に1回など、短い時間でも職員と管理者とマンツーマンでコミュニケーションを取り、利用者支援における職員の心の動きであったり、法人内で担っている業務を抱える心情などを共有できた。そのことで、改めてきらめきが目指していきたい方向性を職員間でコンセンサスを取りながら進めることができ、改めて職員間のコミュニケーションの重要性も再認識した1年だった。

4.職員の状況

職員会議の実施状況

名称	回数	内容及び状況
生活介護ミーティング	12	研修報告・今後の事業の在り方・年間行事・ケースカンファレンス等
きらめきミーティング	30	研修報告・今後の事業の在り方・勤務予定・ケースカンファレンス等

法人内のプロジェクト担当

名称	担当者	回数	内容
管理者会議	下郡	39	のぞみ福祉会の運営に関すること
防災会議	渥美	4	のぞみ福祉会の防災に関すること

対外的な活動

名称	担当者	回数	内容
吹田市障がい者の働く場事業団事務局会議	下郡	11	吹田市障がい者働く場事業団の運営に関すること
吹田市障がい者の働く場事業団授産部門会議	下郡・渥美	12	HAPPY&SMILEの運営に関すること（総会・研修兼ねる
吹田市障害福祉サービス日中活動事業所連絡会事務局	下郡	12	日中活動事業所連絡会の運営に関すること

吹田市障害福祉サービス日中活動事業所連絡会	下郡	5	日中活動事業所連絡会の定例会（総会兼ねる）
吹田の障害者福祉と医療を進める会役員会	下郡	5	障がい者福祉の向上に向けた、市民・行政・議会への啓発活動に関すること（総会兼ねる）
吹田市障がい者週間記念事業実行委員会	下郡	6	障がい者週間記念事業の運営に関すること
五月が丘地区福祉委員会運営委員会	下郡	8	五月が丘地区福祉委員会の運営委員会
吹田しあわせネットワークCSW会議	下郡	1	吹田しあわせネットワークの定例会
吹田市社会福祉協議会施設連絡会幹事会	下郡	6	施設連絡会の運営に関すること（総会含む）
吹田しあわせネットワーク学生支援プロジェクト	下郡	5	施設連絡会の取り組みで、学生支援に関するプロジェクト会議
亥の子谷・千里ニュータウン地区地域会議（準備会含	下郡	7	亥の子谷・千里ニュータウン地区の地域会議
五月が丘地区防災委員会	渥美	10	五月が丘地区の防災に関すること
五月が丘地区連携会議	渥美	10	五月が丘地区の福祉委員、学生、社協、地域包括、障がい者事業所の連携で行う地域貢献について
輪にネット交流会実行委員会	渥美	8	五月が丘地区福祉委員会と障がい者事業所の交流会に関する実行委員会
ボランティア養成講座実行委員会	渥美	4	精神保健福祉ボランティア養成講座

2022年度 事業実施状況

	事業所活動
定例	夕食会(週2回)、ストレッチ(月2回)、きらめき利用者mtg(週1回)、昼食会(週1回)、のゼミ(月1回)、ひまわり勉強会(月1回)、看護師相談（月1回）、きらめき音楽の会（週1回）、佐竹台地区マンション清掃（週1回）、パソコンサロン（月2回）、サロン（毎日）、芸術部活動（適宜：切り絵・塗り絵・書道・レジンなど）・連絡会（偶数月・リモートで開催月もあり）、ピンポン（月2回）、麻雀（適宜）、麻雀交流会（月1回）、アムールさん合同創作活動（2か月に1回）
4月	昼食つくり…定例昼食会以外（アヒージョ・アスパラの豚肉巻・とんてき）、ポスター作り、練りきり作り、すいすい吹田＆五月が丘地区高齢者の集いに参加、新型コロナウィルス感染のため臨時閉所
5月	昼食つくり…定例昼食会以外（冷やし担々麺・ハンバーグ・たこやき）、えびせんの会、練りきりつくり、レク（大山崎山荘）、スィーツつくり（タピオカミルクティ）、映画上映会
6月	昼食つくり…定例昼食会以外（アヒージョ）、スィーツつくり（ハニーレモンシフォンケーキ）、レク（中之島美術館モディリアーニ展）、麻雀教室、写真部撮影会（紫陽花）、練りきりつくり、サフラン個展見学（スペース草）、まったりぃお抹茶、新型コロナウィルス感染のため臨時閉所
7月	昼食つくり…定例昼食会以外（麻婆豆腐・とんてき）、スィーツつくり（バタフライピーティーゼリー）、レク（ミュシャ館）、七夕飾りつくり、蝉取り、まったりぃお茶、ブルーリボン個展にて芸術部作品展示とレジン販売
8月	昼食つくり…スィーツつくり（スフレチーズケーキ）、五月が丘マンション草抜き作業、蝉取り
9月	昼食つくり…定例昼食会以外2回、スィーツつくり（ブルーベリージャム・アイス・クッキー）、写真部芸術部ミーティング、写真部撮影会、（コキア）、レク（手作りフェア）、障がい者週間用音楽演奏撮影
10月	昼食つくり…定例昼食会以外1回、写真部撮影（コスモス）、障がい者歯科検診、大和大学にて公演、西山田地区ふらっとサロンにて写真部芸術部展示会、HAPPY&SMILEのぞみ月間にて作品出展、ハロウィン飾りつくり、レク（かつアンドかつ）、レク（箕面の滝ハイキング）、中島みゆきの会（個々の音楽練習）発足
11月	昼食つくり…定例昼食会以外（キーマカレー、ポキ丼）、五月が丘防災訓練、五月が丘福祉委員会福祉のひろばにて写真部芸術部展示会、写真部カレンダーつくり、クリスマスリース作り、レク（大山崎山荘）
12月	昼食つくり…定例昼食会以外（塩から揚げ・牛筋ビーフシチュー）、スィーツつくり（チュロス）、障がい者週間市役所ロビー展示、お正月飾りつくり、クリスマス会、忘年会、輪にネット五月が丘交流会
1月	昼食つくり…定例昼食会以外（ボロネーゼ）、スィーツつくり（抹茶ティラミス）、初詣「伊射奈岐神社」、レク（生田神社と中華街）、中島みゆきの会練習
2月	昼食つくり…定例昼食会以外（パセリチャーハン・とんてき）、スィーツつくり（胡麻プリン・胡麻団子）、ボランティア養成講座受講生実習、大和大学出張講座、中島みゆきの会練習、ハートふれあい祭り販売用チヂミつくり練習、筋トレ部活動開始
3月	昼食つくり…定例昼食会以外（とんかつ・鯛茶漬け・エビチリ）、スィーツつくり（抹茶シフォン・胡桃スノーボール）、関電コラボアート見学、写真部撮影会（梅・桜）、ハートふれあい祭り販売用チヂミつくり練習、ハートふれあい祭りにてチヂミ販売・中島みゆきの会・音楽の会出演、五月が丘地区高齢者とのふれあいイベントに参加、公民館プログラムに参加

、

2022　年　度　　研　修　参　加　実　績

事業所名：きらめき

氏名	日　　付	研 修 時 間	研　修　テ　ー　マ	①人権	②事業	③資格	④管理者	⑤新人	⑥SW	⑦法律	⑧その他	備　　考
下郡竜太郎	4月11日	18 ： 00 ～ 19 ： 30	私らこんなんやってるで～研修（授産の取り組み）		○				○		○	吹田市障がい者の働く場事業団授産部門
渥美結莉	4月11日	18 ： 00 ～ 19 ： 30	私らこんなんやってるで～研修（授産の取り組み）		○				○		○	吹田市障がい者の働く場事業団授産部門
下郡竜太郎	6月29日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	福祉施設における個人情報保護	○								吹田市社会福祉協議会施設連絡会
下郡竜太郎	7月11日	18 ： 00 ～ 19 ： 30	私らこんなんやってるで～研修（授産の取り組み）		○				○		○	吹田市障がい者の働く場事業団授産部門
渥美結莉	7月11日	18 ： 00 ～ 19 ： 30	私らこんなんやってるで～研修（授産の取り組み）		○				○		○	吹田市障がい者の働く場事業団授産部門
下郡竜太郎	9月12日	18 ： 00 ～ 19 ： 30	私らこんなんやってるで～研修（授産の取り組み）		○				○		○	吹田市障がい者の働く場事業団授産部門
渥美結莉	9月12日	18 ： 00 ～ 19 ： 30	私らこんなんやってるで～研修（授産の取り組み）		○				○		○	吹田市障がい者の働く場事業団授産部門
下郡竜太郎	10月3日	18 ： 30 ～ 20 ： 30	様々な障がいについての学習会						○			吹田市障害福祉サービス日中活動事業所連絡会
渥美結莉	10月3日	18 ： 30 ～ 20 ： 30	様々な障がいについての学習会						○			吹田市障害福祉サービス日中活動事業所連絡会
下郡竜太郎	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲労について								○	法人内研修
下郡竜太郎	11月14日	18 ： 00 ～ 19 ： 30	私らこんなんやってるで～研修（授産の取り組み）		○							吹田の障がい者の働く場事業団授産部門
渥美結莉	1月6日	18 ： 00 ～ 20 ： 00	虐待と職員の疲労について（動画）								○	法人内研修
下郡竜太郎	1月16日	18 ： 00 ～ 19 ： 30	私らこんなんやってるで～研修（授産の取り組み）		○							吹田の障がい者の働く場事業団授産部門
渥美結莉	1月16日	18 ： 00 ～ 19 ： 30	私らこんなんやってるで～研修（授産の取り組み）		○							吹田の障がい者の働く場事業団授産部門
下郡竜太郎	3月13日	18 ： 00 ～ 19 ： 30	私らこんなんやってるで～研修（授産の取り組み）		○							吹田の障がい者の働く場事業団授産部門
下郡竜太郎	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 30	法人内ハラスメント研修について（職員向け）								○	法人内研修
渥美結莉	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 30	法人内ハラスメント研修について（職員向け）								○	法人内研修
福田秀子	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 30	法人内ハラスメント研修について（職員向け）								○	法人内研修
下郡竜太郎	3月24日	17 ： 00 ～ 19 ： 00	法人内ハラスメント研修について（管理者向け）				○				○	法人内研修
		： ～ ：										
		： ～ ：										
		： ～ ：										

2022年度　　サフラン(就労継続支援事業B型) 事業報告

1.事業所の状況　　2023/3/31現在　　定員：　　20 名

年齢別利用者数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	0	0	3	2	6	6	17
女性	0	2	0	4	3	2	11

利用期間別利用者数

	１年未満	１年～３年未満	３年～５年未満	５年～１０年	１０年以上	合計
男性	1	2	1	5	8	17
女性	2	0	2	3	4	11

障がい種別ごとの利用者数（重複あり）

	精神	知的	身体
男性	14	3	0
女性	9	4	0

開所日数と利用実績

	年間合計	年間平均
開所日数	259	22
延べ利用者数	3241	270
（うち在宅支援）	93	8
月初在籍者数	320	27
新規利用者数	3	
退所者数	0	
相談・見学件数	18	
体験利用者数	3	

利用相談･見学者など	障がい者相談支援センターからの紹介やクリニックからの相談などある中で、計画相談事業所からの利用についての相談が多数寄せられ、実際に見学・体験利用を通して契約に繋がっている。その他、福祉サービスにつながっていないご家族からの相談、家族会参加や住まいに関するものなどさまざまな相談をお受けした。

苦情受付および事故の状況

苦情	8	利用者間に関するものが2件。お弁当の清算に関するものが１件。スタッフの対応に関するものが3件。スタッフの体制に関するものが１件。設備に関するものが１件となっている。
事故	13	授産活動中(調理・紙すき・配達）による怪我や転倒・やけどなどが９件。レク中によるものが２件。通所直後の体調不良（熱中症のような症状）が１件。階段での転倒が１件。高齢化が進んでおり、それに伴う体調不良や転倒などが増えてきている。

2.生産活動の状況

	年間合計	年間平均
収入	9,541,738	795,145
支出	6,184,454	515,371
支払工賃総額	3,676,826	306,402
工賃時給		444
平均工賃月額※		14,140

授産種目① 弁当事業	吹田市配食サービス事業の委託を受け、竹見台・桃山台地区の指定された独居高齢者宅へ弁当の宅配および利用者の安否確認を行った。令和５年度末に配食サービス事業の廃止が決定し、近隣を中心に一般販売数を増やす努力を続けている。その他、地区福祉委員会から大型の注文を定期的にいただいており、高齢者の方にお届けすることができている。
授産種目② 紙すき	個展開催に至るまで、たくさんの困難があったものの、2022年度もなんとか開催することができた。感染対策を徹底し、2021年度には叶わなかった利用者の在廊が実現している。今回はサフランに集う多くの利用者が個展に関わり、新たな作品が生まれ続けた。ギャラリーのつながりから、サフランの手すき紙「さふがみ」を注文いただくこともあった。
授産種目③ 織り	
授産種目④ あいほうぷ清掃	現在２名の利用者が清掃作業に参加している。2022年度から参加するようになった利用者に、これまで従事していた利用者が清掃の仕方を教えるなど新たな一面を見る機会となった。
授産種目⑤ 内職	パン屋の商品ラベルを個包装袋に貼り付けるシールづくりと貼る作業を請け負っている。元々は、メニュー表の塗り絵作業が苦手な利用者へ提供するために準備されたものだが、今では複数の方が取り組むことを希望され、サフランの作業として定着している。

3.就労支援の状況

	年間合計
就職者数	0
フォローアップ件数	0

就労支援の状況	現在、２名の利用者が清掃作業のアルバイトを継続している。

4.事業所での活動内容

①利用者状況

職員体制やコロナ禍という状況を踏まえ、しばらくの間新規利用者の受け入れを断っていたが、2022年度に入りようやく受け入れに向けて動き出すことができた。春より、障がい者相談支援センターや計画相談事業所などの関係機関へ周知を行い、続々と見学・体験通所へと進んでいき、秋には３名の方がサフランの仲間として加わった。比較的、若い年齢層の利用者が増えたことに加えて抱えている障がいや症状もそれぞれ異なり、これまでとは違うアプローチや支援が求めらることとなった。

一方で、今年度の退所者は０名だった。しかし、全員が定期的にサフランに通所できているというわけではなかった。他の支援が生活の中心となりサフランに通所する余地がなかったり、調子を崩して入院したりと思うように通所ができない方が複数名おられた。中には、高齢による体力の低下などから独居生活を継続するのが難しくなり、福祉マンションへ入居された方もいる。入居後、食事や入浴などは整ったものの通所再開には至っておらず、今後どのようなアプローチが必要とされているのか検討を続けていきたい。

②生産活動

配食サービス一部撤退からの一年となった。現在委託を継続している地区についても、利用条件が厳しくなったことや来年度廃止を見越して新規利用者は全く入ってこなかった結果、一昨年と比べて弁当の売り上げは200万円のマイナスとなった。しかしそのような過酷な状況の中でも、エスペランサの協力を得て他施設に週１回弁当を届けることができた。

地域に根差した弁当屋としての道を目指し青山台地域の方々への働きかけをスタートした。また金銭的な困りごとを持った利用者が真っ先に食費を削ることで体調を崩す姿を目の当たりにし、法人内の食事が滞る利用者に対して食を通して健康に働きかけができないか模索を始めた。その他、環境に配慮した容器の提案を受け、バザーでリユース食器の利用を実験したり、日本非常食推進機構と連携し、フードロスの削減と防災意識の高揚、持続可能な食事開発に向けた取り組みを試行したりするなど新たな挑戦を始めた。これまで通り丁寧な食事作りを行いながら、新しい工夫や価値観を持ってこの困難な局面を乗り越えていきたい。

③地域交流

コロナ禍に中止となっていた青山台福祉ふれあいまつりが久しぶりに開催された。地域の子どもたちを対象に利用者が講師となって紙すき教室を企画するといった初めての試みを行った。「いつか子どもたちに紙すきを教えたい」という夢を語っておられたため、ついに実現し感慨深い時間となった。これをきっかけにサフランのことを知る住民が増え、青山台PTA・青少年対策委員会から小学校で行われたクリスマス会に声をかけていただき豚汁２５０食を提供した。また、2023年度に向けて青山台を盛り上げていくプロジェクトにも呼びかけていただくなど、これまでとは全く違う年齢層の地域住民との交流がスタートした。これまで長く交流を深めているアムールをはじめ青山台地区福祉委員会とも数多くの場を共有した。青山台小学校からは授業の一環として小学２年生の児童の皆さんにサフランを見学いただいた。その他、秋にオープンしたまちなかリビングでのイベントにも積極的に参加し、サフランの周知を図った。

④活動の再開

コロナ禍において、大人数での活動は難しいという状況が続き、少人数での複数開催でレクリエーションを企画した。以前は毎年１泊旅行に出かけていたものの、ここ近年は実施できておらず二の足を踏んでいたが、日帰り旅行開催に向け、まずは復帰協企画のバス旅行に参加し、大人数で旅行をするためのノウハウを学んだ。その後、サフランでの日帰り旅行を実現することができている。福祉ふれあいまつりやハートふれあいまつりなどバザーへの参加にも至った。この１年でさまざまな活動の再開が叶い、新たな生活へのスタートを切っている。

⑤個展の開催

サフランに集う利用者や職員の怪我・病気が相次ぎ、個展自体の開催が危ぶまれる時期もあった。しかし、「今できること」を日々見つめ、織り・紙すき・造形・絵画など創作活動を通して未来への希望をつなぎ、個展までたどり着くことができた。前回から継続して創作した作品をはじめ、偶然の出会いから生まれた作品、パン袋の内職から生まれた作品、そしてなによりも今回はサフランに集う多くの利用者たちが自画像に挑戦した。自画像と同時にこれまでの人生を振り返り「ミズニナガシタイコトを語る」取り組みも行った。会期中には多くの方が来場してくださり、沢山の励ましをいただいたことで、また新たな一歩を踏み出すことができた。個展終了後も展覧会や美術館に足を運び、刺激を受けることで新しい作品が生まれている。

⑥サフランに求められているもの

　就労移行支援事業や就労継続支援事業A型の事業の定着とともに、就労継続支援事業B型を利用希望する方々の求めるものが以前とは変化してきている。B型を経て就職を目指すというスタイルから、就労を定年により終了した人やドクターストップで働くことができない人、福祉的就労を希望する人が集まるようになってきた。ここから次のどこかへ行くための通過点としてではなく、サフランを職場として利用を希望している人が増えている。私たちは彼らが働きたいと願う分の「働く場」を保障していく必要を感じている。一方で若い年齢層が増える中で、彼らの可能性を潰すことなく広い視野を持って羽ばたくサポートをしてきたい気持ちもある。

　また、働くとともに一人ではできないことをここで実現したい気持ちが強いこともわかってきた。障がいや病気によってできなかった体験をここで取り戻していくことを多くの方が求めている。様々なニーズを整理しながら来年度の活動につなげていきたい。

5.職員の状況

職員会議の実施状況

名称	回数	内容及び状況
サフランスタッフミーティング	２2回	福祉スタッフのみで開催。来月の予定、支援計画見直しについて、管理者会議内容の報告、問題改善、内部研修、その他連絡など。
サフランメンバーミーティング	１２回	福祉スタッフとメンバーが出席。調理、事務、自主製品（紙すき、織り）についての話し合い。その他、レクレーションの検討を行っ
調理ミーティング	7回	調理スタッフと福祉スタッフが出席。日々の調理に関することや、調理準備の打ち合わせを行った。6月から施行されたHACCPに適応するための検討会も実施した。
連絡会	４回	利用者、ボランティア、家族、地区福祉委員、相談支援センターや計画相談事業所など出席。事業所の前月の活動状況と当月の活動予定の報告など。出席した関係機関の紹介なども行っている。 ※現在はサフランメンバーミーティングの際に、内容を報告している。

法人内のプロジェクト担当

名称	担当者	回数	内容
管理者会議	西	31回	法人運営及びその事務に関する打ち合わせ（リモート含む）
のぞみスクラム会	栗田	23回	若手職員で構成。職員間、又は利用者も含めた交流行事の企画。のぞみ便りの編集。
スーパービジョン	西		法人職員からの要請に応じ、相談を受ける。
復帰プログラム	西	11回	メンタル不調における休職者の復帰に関する規程づくり。
職員聴き取り（打ち合わせ）	西	1回	法人職員各々と面談し、働き方や生活、今後の希望など、幅広く話を聞き取り、法人全体の課題としてフィードバックする、必要に応じ解決や改善を図る。

対外的な活動

名称	担当者	回数	内容及び状況
青山台商店会	西	4回	青山台商店街の運営、敷地建物の管理、商店会イベントの企画・打ち合わせなど。緊急事態宣言により会場となる市民ホールが閉鎖された場合、中止。コロナにより夏祭りなどの行事は中止となった。

青山台地区福祉委員会	西 栗田	6回	青山台地区福祉委員会の活動を知り、サフランとの交流イベントの報告を行う。本年度は委員会自体も活動を自粛されている。
吹田市配食事業所との懇談会	西	4回	吹田市の実施する、高齢者障がい者配食事業の今後の在り方について、受託事業所、障がい福祉室、高齢福祉室とが検討を行う。
佐竹台地区福祉委員会のお弁当注文	西 栗田 西田	3回	佐竹台地区内の高齢者に向けて弁当を届ける。
吹田市障がい者の働く場事業団授産部門会議	栗田 西田	１２回	授産に関する共同受注の促進、授産製品の販路拡大、事業所研修など。

その他

名称			
サフラン紙すき手織り作品展	全員	1回	豊中スペース草にて。６/24~6/30
歯科検診	栗田	1回	藤田歯科協力。７/7実施。

2022年度 事業実施状況

	事業所活動
定例	連絡会、メンバーミーティング、サフカフェプレミアム、ブルーリボンケーキ販売、大掃除、調理ミーティング、配達ミーティング、健康プログラム、外出レクリエーション
4月	外出レクリエーション（お花見歓迎会）、外出レクリエーション（映画『シング』）、個展に向けての休日開所、ブルーリボンケーキ販売、大掃除、調理ミーティング、サフカフェプレミアム、健康プログラム、花音工房のリモート見学研修
5月	個展準備に向けての開所（２回）、サフカフェプレミアム、外出レクリエーション（天王寺動物園）、メンバーミーティング、ブルーリボンケーキ販売、大掃除、健康プログラム
6月	音楽を聴く会、サフカフェプレミアム、栄養士による食中毒勉強会、個展準備に向けての開所、サフラン個展開催・見学（スペース草）、メンバーミーティング、健康プログラム、ブルーリボンケーキ
7月	サフカフェプレミアム、佐竹台地区福祉委員会１３０食注文、ブルーリボン個展見学、サフラン個展報告会、外出レクリエーション（しゃぶしゃぶ）、歯科検診、メンバーミーティング、大掃除、ブルーリボンケーキ販売、健康プログラム、連絡会、青山台地区福祉委員会お楽しみ会、水泳の会
8月	サフカフェプレミアム、外出レクリエーション（千里北公園でのお祭り）、サフラン納会、メンバーミーティング、大掃除、健康プログラム、ハンバーガーを作る会
9月	外出レクリエーション（舞洲ごみ処理工場見学）、外出レクリエーション（岡本太郎展）、連絡会、メンバーミーティング、ブルーリボンケーキ販売、大掃除、健康プログラム
10月	ハピスマのぞみ月間出展、フードドライブ、きらめき作品展見学、外出レクリエーション（絵本原画展）、佐竹台地区福祉委員会１２０食注文、外出レクリエーション（焼肉）、サフカフェプレミアム、健康プログラム、ブルーリボンケーキ販売、大掃除、刺繍の会「クローバー」
11月	復帰協主催和歌山日帰り旅行ツアー、まちなかリビング北千里オープニングイベント出店、外出レクリエーション（太鼓亭）、福祉ふれあい祭り、サフカフェプレミアム、メンバーミーティング、大掃除、健康プログラム、連絡会、刺繍の会「クローバー」
12月	市役所ロビー販売、第三者委員聞き取り、青山台小学校PTAクリスマス会豚汁２５０食注文、HOPE・ひばり合同忘年会、サフカフェプレミアム、メンバーミーティング、青山台地区福祉委員会主催クリスマス会、健康プログラム、クリスマス忘年会、外出レクリエーション（回転すし・割烹）、サフラン納会、刺繍の会「クローバー」
1月	日帰り旅行（姫路・神戸）、イエローレシート呼びかけ活動参加、サフカフェプレミアム、メンバーミーティング、映画上映会（幸せの黄色いハンカチ）、連絡会、刺繍の会「クローバー」、大掃除、ＢＲケーキ販売、健康プログラム
2月	佐竹台地区福祉委員会１４０食注文、個展に向けた休日開所、サフカフェプレミアム、メンバーミーティング、大掃除、健康プログラム、調理ミーティング、ＢＲケーキ販売、外出レクリエーション（天ぷらの山）、ＣＤを聞く会、大和大学出張講座
3月	ハートふれあい祭り、紙すきバス研修旅行（杉原紙の里）、個展に向けての休日開所、外出レクリエーション（お花見歓迎会）、メンバーミーティング、サフカフェプレミアム、刺繍の会「クローバー」、連絡会

2022 年 度　　研 修 参 加 実 績　　事業所名：　サフラン

氏名	開催日	研修時間	研修テーマ	①人権	②事業	③資格	④管理者	⑤新人	⑥SW	⑦法律	⑧その他	備考
西田　匡希	4月15日	16 ： 00 ～ 18 ： 00	のぞみ福祉会の歴史と理念					○				社会福祉法人のぞみ福祉会
栗田　みくと	4月20日	16 ： 00 ～ 18 ： 00	メンタルヘルス								○	大阪産業保健総合支援センター
西　知子	4月20日	16 ： 00 ～ 18 ： 00	メンタルヘルス								○	大阪産業保健総合支援センター
西田　匡希	4月22日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	吹田の社会資源					○				社会福祉法人のぞみ福祉会
栗田　みくと	5月9日	17 ： 30 ～ 19 ： 00	ハピスマ　事業所研修		○						○	一般社団法人　働く場事業団
西田　匡希	5月13日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	地域生活を支える福祉サービスの仕組み　A					○				社会福祉法人のぞみ福祉会
西田　匡希	5月27日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	地域生活を支える福祉サービスの仕組み　B					○				社会福祉法人のぞみ福祉会
西田　匡希	5月30日	10 ： 00 ～ 16 ： 30	初級クラスサービスマナーセミナー					○				大阪府社会福祉協議会　大阪福祉人材支援センター　研修グループ
西田　匡希	5月31日	10 ： 00 ～ 16 ： 30	初級クラスサービスマナーセミナー					○				大阪府社会福祉協議会　大阪福祉人材支援センター　研修グループ
西田　匡希	6月10日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	記録の意味と目的					○				社会福祉法人のぞみ福祉会
西田　匡希	6月24日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	事業管理に関すること					○				社会福祉法人のぞみ福祉会
西田　匡希	7月8日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	虐待防止と職員のメンタルヘルス					○				社会福祉法人のぞみ福祉会
栗田　みくと	7月1日	9 ： 00 ～ 18 ： 00	大阪府相談支援従事者＜初任者研修＞	○		○			○			社会福祉法人　大阪府障害者福祉事業団
栗田　みくと	7月2日	9 ： 00 ～ 18 ： 00	大阪府相談支援従事者＜初任者研修＞	○		○			○			社会福祉法人　大阪府障害者福祉事業団
栗田　みくと	7月11日	17 ： 30 ～ 19 ： 30	ハピスマ　事業所研修		○						○	一般社団法人　働く場事業団
西田　匡希	7月11日	17 ： 30 ～ 19 ： 30	ハピスマ　事業所研修		○						○	一般社団法人　働く場事業団
西田　匡希	8月5日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	就業規則について					○				社会福祉法人のぞみ福祉会
西田　匡希	8月19日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	法人組織や経営の仕組み					○				社会福祉法人のぞみ福祉会
西田　匡希	9月2日	16 ： 00 ～ 17 ： 30	利用者の話を聞く力					○				社会福祉法人のぞみ福祉会
栗田　みくと	9月12日	17 ： 30 ～ 20 ： 00	事業所間研修「フォレストリバー・ぐーちょきパン屋さん」		○						○	一般社団法人吹田市障がい者の働く場事業団
西田　匡希	9月12日	17 ： 30 ～ 20 ： 00	事業所間研修「フォレストリバー・ぐーちょきパン屋さん」		○						○	一般社団法人吹田市障がい者の働く場事業団
西　知子	9月13日	16 ： 00 ～ 18 ： 00	「ありのままがあるところ」ー与えられる側から作り出す側へー	○								NHK主催：鹿児島県しょうぶ学園

栗田　みくと	9月13日	16 ： 00 ～ 18 ： 00	「ありのままがあるところ」ー与えられる側から作り出す側へー	○								NHK主催：鹿児島県しょうぶ学園
西田　匡希	9月17日	15 ： 00 ～ 17 ： 00	「ありのままがあるところ」ー与えられる側から作り出す側へー	○								NHK主催：鹿児島県しょうぶ学園
栗田　みくと	10月3日	18 ： 30 ～ 20 ： 30	知的障がい者の基礎知識とコミュニケーションについて		○							日中活動事業所連絡会
西田　匡希	10月3日	18 ： 30 ～ 20 ： 30	知的障がい者の基礎知識とコミュニケーションについて		○							日中活動事業所連絡会
西　知子	10月8日	9 ： 00 ～ 18 ： 00	「瞑想と心理家族療法『家族の座』について」								○	大阪ダルク
西　知子	10月9日	9 ： 00 ～ 18 ： 00	「瞑想と心理家族療法『家族の座』について」								○	大阪ダルク
栗田　みくと	10月14日	16 ： 30 ～ 17 ： 30	職員の交流と研修の振り返り					○				社会福祉法人のぞみ福祉会
西田　匡希	10月14日	16 ： 30 ～ 17 ： 30	職員の交流と研修の振り返り					○				社会福祉法人のぞみ福祉会
西知子	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○							○	社会福祉法人のぞみ福祉会
栗田みくと	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○							○	社会福祉法人のぞみ福祉会
西田匡希	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○							○	社会福祉法人のぞみ福祉会
安田茂子	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○							○	社会福祉法人のぞみ福祉会
太田房子	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○							○	社会福祉法人のぞみ福祉会
山科敬子	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○							○	社会福祉法人のぞみ福祉会
マイナ奈央	11月11日	19 ： 00 ～ 21 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○							○	社会福祉法人のぞみ福祉会
栗田みくと	1月16日	17 ： 30 ～ 19 ： 30	事業所間研修「ほくほく」		○						○	一般社団法人吹田市障がい者の働く場事業団
西田匡希	1月16日	17 ： 30 ～ 19 ： 30	事業所間研修「ほくほく」		○						○	一般社団法人吹田市障がい者の働く場事業団
荒木田芳子	1月26日	13 ： 00 ～ 16 ： 00	心のサポーター養成講座	○						○		吹田市福祉部　福祉部障がい福祉室
西知子	1月31日	17 ： 00 ～ 18 ： 30	集団指導	○	○		○					吹田市福祉部　福祉指導監査室
栗田みくと	1月31日	17 ： 00 ～ 17 ： 10	障がい者虐待の理解と防止について	○	○							吹田市福祉部　福祉指導監査室
西田匡希	1月31日	17 ： 00 ～ 17 ： 10	障がい者虐待の理解と防止について	○	○							吹田市福祉部　福祉指導監査室
荒木田芳子	2月22日	14 ： 00 ～ 16 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
鈴木陽子	2月22日	14 ： 00 ～ 16 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
津久田和子	2月22日	14 ： 00 ～ 16 ： 00	虐待と職員の疲弊について	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
栗田みくと	3月13日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	事業所間研修「はあて」		○							社会福祉法人のぞみ福祉会
西田匡希	3月13日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	事業所間研修「はあて」		○							社会福祉法人のぞみ福祉会

西知子	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	ハラスメント研修	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
栗田みくと	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	ハラスメント研修	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
西田匡希	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	ハラスメント研修	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
安田茂子	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	ハラスメント研修	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
太田房子	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	ハラスメント研修	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
荒木田芳子	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	ハラスメント研修	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
鈴木陽子	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	ハラスメント研修	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
津久田和子	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	ハラスメント研修	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
マイナ奈央	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	ハラスメント研修	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
篠原紗耶花	3月24日	15 ： 00 ～ 16 ： 00	ハラスメント研修	○						○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
西知子	3月24日	16 ： 30 ～ 17 ： 30	ハラスメント研修　管理者向け	○			○			○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会
栗田みくと	3月24日	16 ： 30 ～ 17 ： 30	ハラスメント研修　管理者向け	○			○			○	○	社会福祉法人のぞみ福祉会

2022年度　シード
（指定特定相談支援・指定障がい児支援・指定一般相談支援）事業報告

1.事業所の状況　2023/3/31現在

開所日数と利用実績

指定特定相談支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
月初契約者数	178	179	178	181	181	181	181	181	181	183	182	180	
新規相談件数	3	3	2	3	2	0	3	3	2	1	2	4	28
新規契約者数	1	0	3	0	0	1	0	0	2	0	1	1	9
契約終了者数	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	3	1	7
計画	15	18	14	14	16	16	14	12	6	8	20	15	168
モニタリング	123	121	123	123	125	121	127	124	127	127	120	120	1481

指定障害児支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
月初契約者数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
新規契約者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
契約終了者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	2	1	7
モニ タリング	2	3	2	3	3	3	1	3	3	2	1	2	28

指定一般相談支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
月初契約者数	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	
新規契約者数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
支援終了者数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
訪問	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	25

苦情及び事故の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
苦情受付件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事故件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2.事業所での活動内容

重点項目①【新規相談と利用契約者数】

相談支援における3月末での契約者数は１８0名。そのうち新規契約が９名、契約終了が7名で前年度比2名増となった。新規相談は、行政（障がい福祉室の地区担当者）からが最も多く、医療機関や日中活動事業所からの相談、他の相談支援事業所の相談支援専門員が退職したことによるケースの引継ぎの依頼があった。終了された7名の内訳は、ご本人の希望により福祉サービスの利用を辞められた方が3名、医療サービスだけになった方が1名。就職され半年後に就労定着を利用する予定で計画を再開予定の方が3名となっている。障がい児支援における契約者数は、3名で増減はなかった。地域移行については、6月に1名の利用者が退院し一人暮らしとなり利用終了となったが、同じ6月に施設からの地域移行希望者1名の利用が始まった。相談3事業（相談支援・障がい児支援・地域移行）の年度末利用者数合計は、2名増の184名となった。

重点項目②【地域移行】

グループホームでの体験利用をすすめていた利用者が６月退院後、正式利用となり、地域移行の利用は終了となった。また入所施設からの依頼で受けていた1ケースの受給者証の準備が整い1名利用開始となった。入所施設からの地域移行のケースは初めてだが、経験豊富な支援員が担当してくれたこともあり円滑な支援が実施できている。施設を出るための家探しを本人、施設と共に継続中である。さらに4月から精神科病院に30年あまり入院されていた方の、地域移行の支援を開始する準備をしている。
このケース以外にも、病院から地域移行の支援を利用することを勧めたい患者に会いに来て欲しいとの依頼もある。

重点項目③【住環境に関する支援】

居住環境に悩みを抱える利用者は多い。家賃を安くしたい、もう少し広い部屋が欲しい、近隣からの音が気になりしんどいなど、多くの利用者から相談がある住まいの問題を解決するため、公営住宅への申し込みを支援することを始めた。具体的には、市役所などで配布されている府営住宅、市営住宅の申し込み用紙を配布開始と同時にもらいに行き、公営住宅を希望されている利用者に情報提供することを始めた。本人やご家族とも相談の上、本人だけで対応が難しい場合は、申し込みの支援も行った。申し込みの結果、当選される方も出たが、新しい環境に変わることへの不安に対する相談も継続して行った。また吹田市以外へグループホームや高齢者向け福祉住宅に入居される利用者もいた。それらグループホームなどへモニタリングで訪問させてもらうことで、住まいの環境に加え、食事提供の場面やその他の支援状況を把握することができた。またこれらの情報を相談支援専門員同士で共有したことで多くの利用者に新鮮な情報提供ができた。

総括

利用者との定期的なモニタリングの際に、福祉サービス以外にも日常における生活相談が必ず出てくる。そのような時には、できるだけ利用者の話に耳を傾け、問題の整理や解決の糸口となる専門の窓口につなげるように支援している。福祉サービスだけでは、どうしても解決できない問題も多く、行政、医療、福祉など、ご家族や家主さんなどとも連携して問題解決に取り組んだ。また利用者が実際のサービス利用時にどのような支援を受けているか把握するため、サービス利用時の居宅や事業所等を訪問し、その状況をモニタリングに反映するように務めた。それにより、これまで以上に事業所の状況を把握できるようになった。それぞれの相談支援専門員が見聞きした常に新しい情報やその他の福祉サービスの事業所から営業に来られた時に受け取った資料などを毎週のケア会議だけでなく、利用者にも情報提供した。今後は法人内職員にも情報共有できればと考えている。

3.職員の状況

職員会議の実施状況

名称	回数	内容及び状況
相談支援調整会議	46回	相談支援専門員スケジュール確認、情報の伝達
検討会議	50回	新規計画相談受け入れについて

法人内のプロジェクト担当

名称	回数	内容
管理職会議	12回	のぞみ福祉会の運営に関すること
全体ミーティング	4回	

対外的な活動

名称	担当者	回数	内容
吹田市社会福祉審議会障がい者施策推進専門分科会	阪本	7回	障がい者の福祉施策に係る計画の策定その他障がい者の福祉施策の推進についての調査審議
吹田地域精神医療学習会	中山	11回	医療・行政・各事業所・訪問看護など専門家が集まり、それぞれ事例を発表し支援方法を検討することを目的にしている。また、年に２回程度は公開学習会として支援者以外の参加も促している。コロナの感染防止のため緊急事態宣言下ではYouTubeで機関紹介をしている。
よつば会	中山・小暮・原田	0回	4月～3月、榎坂病院にて行う院内茶話会を中心に退院への意欲を高めてもらうための活動。（コロナ感染予防のため中断中で開催できていない。）

2022　年　度　　研　修　参　加　実　績

事業所名：　　シード

氏名	開　催　日	研修時間	研　修　テ　ー　マ	①人権	②事業	③資格	④管理	⑤新人	⑥SW	⑦法律	⑧他	備　考
三宅見佳	2022年5月22日	10 ： 00 ～ 17 ： 00	大阪市障がい区分認定調査員研修						○			
柳田修辞	2022年6月29日	16 ： 00 ～ 17 ： 00	福祉施設における個人情報保護について							○		
三宅　見佳	2022年10月3日	18 ： 30 ～ 20 ： 00	知的障がい者の基礎知識とコミュニケーションについて		○				○			
山口　宗寛	2022年10月19日	10 ： 00 ～ 12 ： 00	出納職員の会計管理について		○							
柳田　修辞	2022年10月19日	10 ： 00 ～ 12 ： 00	出納職員の会計管理について		○							
中山　恭子	2022年11月18日	18 ： 30 ～ 21 ： 00	障がい者相談支援センターについて						○			吹田地域精神医療学習会
三宅　見佳	2022年11月11日	17 ： 00 ～ 19 ： 00	虐待と職員の疲弊を防ぐために						○			法人内研修
中山　恭子	2022年12月16日	18 ： 30 ～ 21 ： 00	成年後見制度について						○			吹田地域精神医療学習会
三宅　見佳	2022年12月21日	10 ： 30 ～ 15 ： 00	大阪府相談支援従事者現任者研修			○						web講義
三宅　見佳	2023年1月17日	9 ： 30 ～ 17 ： 00	大阪府相談支援従事者現任者研修			○						
中山　恭子	2023年2月8日	15 ： 00 ～ 17 ： 00	薬物依存症の理解と支援 事例から対応の視点を学ぶ						○			
小暮　和歌子	2023年2月8日	15 ： 00 ～ 17 ： 00	薬物依存症の理解と支援 事例から対応の視点を学ぶ						○			
小暮　和歌子	2023年2月26日	14 ： 00 ～ 16 ： 00	HIV陽性者の地域生活を支える 身寄りがない方へのサーポートネットワーク	○								
三宅　見佳	2023年2月14日	9 ： 00 ～ 17 ： 00	大阪府相談支援従事者現任者研修						○			
三宅　見佳	2023年3月7日	9 ： 00 ～ 17 ： 00	大阪府相談支援従事者現任者研修						○			
三宅　見佳	2023年3月17日	14 ： 00 ～ 15 ： 30	令和４年度障がい者差別解消研修						○			
中山　恭子	2023年3月17日	14 ： 00 ～ 15 ： 30	令和4年度障がい者差別解消研修						○			
		： ～ ：										
		： ～ ：										
		： ～ ：										
		： ～ ：										
		： ～ ：										
		： ～ ：										

2022年度　エスペランサ(共同生活援助)　事業報告

１．事業所の状況

利用者の状況　　2022年度　利用者概況と開所状況

共同生活援助エスペランサ		
2022年度平均在籍者数	新規入所者数	退所終了者数
10.25	0	3
新規見学者数	利用相談数	延べ体験利用者数
3	2	0
開所日数	延べ利用者数（3月末時点）	
365	3518	
在籍者平均年齢（3月末時点）		
50		

苦情および事故の状況

	４月	５月	６月	７月	8月	9月	
苦情件数	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
事故件数	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
	10月	１１月	１２月	1月	２月	3月	合計
苦情件数	**0**	**0**	**0**	**1**	**0**	**0**	**0**
事故件数	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**

苦情および事故の詳細

苦情及び事故の概要、その後の対応について	1月にプレジール利用者から苦情が1件あった（実際は2月の初旬に利用者から本格的な訴えがあったが、1月から会話の中で時々口にされていた内容だったので、1月の苦情として挙げている）。昨年諸事情により急遽退職した職員に関して「なぜ突然辞めたのか？」「最後に挨拶くらいできたのではないか？」など、エスペランサとシードの職員に対して伝えられた。こちらの説明不足であったことを伝え、家庭の事情や急激な体調悪化もあってタイミングも合わず挨拶もできなかったことを説明し、納得はしてもらえた。今回の苦情からスタッフ間での情報共有の不足や適切なタイミングでの説明ができていなかったことが分かったため、以後気を付けて慎重に対応したい。

2.事業所での活動内容

部屋の清掃支援…片付けや掃除などをして、自力で住環境を維持するのが難しい利用者もおられたため、年度末あたりから積極的に清掃の支援に入っている。職員のみでやるのではなく、利用者にもできる範囲で手伝ってもらい、協働というかたちをとっている。部屋の状態も良くなり、利用者からも「すごく助かる」という声もいただいている。こうした支援は始まったばかりだが、ただ部屋が綺麗になるというだけでなく、衛生面が良くなることで心身の健康にも良い影響もあると感じるため、今後も続けていきたい。
夕食会…住居毎に頻度は違うが、行事食なども取り入れた食の充実を図る目的で行っている。共有部屋に集まって一緒に食事をとるというかたちではあるが、感染に対する不安が強い方々もいらっしゃり、そういった気持ちも大切にし、各自の自室にて食事をとれるように臨機応変にした。
受診の促し・通院同行…2022年度は利用者の通院に同行することが多かった。急な体調不良時には計画相談と連携をして、かかりつけのクリニックへ同行することがあった。また長年眼の状態が悪く、眼科受診の必要性がある利用者への継続した受診の促しを行なうことで、近くの眼科に受診・通院につながり、同行もさせてもらった。必要な医療につなげることができた1年でもあった。
日々の訪問・相談支援…2022年度も新型コロナウイルスへの対応に多くの時間を割かざるを得ない1年となったが、そういった中でいかに不必要な負荷を避け普段通りの暮らしを営んでいただけるか、安心して過ごせる場所であるかに主眼を置き、支援を行った。また職員は利用者との適切な距離を保ち、利用者が相談したい時にはすぐに相談でき、なおかつプライバシーに踏み込みすぎない環境を心掛けた。
利用者ミーティング…それぞれの住居毎に月1回開催し、お互いに守るべきルールについて話し合う機会としているが、コロナウイルス感染症対策として、2022年度は行わなかった（レクリエーションも同様、コロナウイルス感染予防の観点から引き続き中止とした）。

2022年度共同生活援助事業エスペランサ活動のまとめ

2022年度は2021年度と同様に新型コロナウイルスの感染対策・感染予防を念頭に置きながらの支援体制であった。共有スペースのアルコール消毒や換気はもちろん、可能な限りで利用者に検温を行なってもらい、体調の把握も意識しながら対応をしてきた。第7波・第8波と、吹田市内でも感染が拡大する中で、普段通りの暮らしを営んでもらう・安心して過ごせるということは引き続き主眼に置いた。そのような中でも感染をしてしまう利用者もおられ、食材の配達・発熱外来など医療情報の提供・訪問時間外の緊急対応など、支援が途切れないようにし、安心感を持ってもらえるような体制は整えていった。引き続き2023年度も、2022年度の経験を活かし、より良い対応をしていきたい。 利用者数に関して、2022年度は様々な理由から退去者が多かった。新しいグループホームを利用する・実家に帰るといったご本人の希望から退去する方もいらっしゃれば、ADLの低下からグループホームでの一人暮らしが困難になり、医療・計画相談と連携をして介護施設に入所せざるを得ないというケースもあった。それぞれ理由があったが、各々に対して丁寧な対応は意識し、退去後も関係を断つことは勿論せず都度様子はお聞きし、必要ならば関係機関にも連絡をするようにしている。ご本人にとってより良い生活を送ってもらえるように意識しつつ、新規利用者の対応も引き続きしていく。 グループホームの支援・活動としては、これまで通りの訪問・通院同行・エスペランサとピオラの夕食会などだけでなく、プレジールでの夕食会を試験的に行なう、利用者の部屋に入り共に掃除をするなどといった新しい取り組みも行なった。利用者からの評価も良く、2023度も2022年度の振り返りをしつつ利用者のためになる取り組みはやっていきたいと考えている。

3.職員の状況

職員会議の実施状況

名称	回数	内容及び状況
スタッフミーティング	12回	グループホームのスタッフ全員で支援方法などについて話し合う。
管理職会議	37回	管理者が集まり、法人全体の運営について話し合った。
職員全体ミーティング	4回	職員全体が集まって、事業ごとの報告や全体的な活動について話し合う。コロナ感染予防対策としてリモートで行った。

対外的な活動

名称	担当者	回数	内容
吹田市グループホーム連絡会	阪本 北山	1回 6回	市内グループホームにかかわる支援者が集まり課題解決を図る。様々な居住の支援にかかわる情報交換。
障害支援区分認定審査会	阪本	９回	障害支援区分認定を検討 感染拡大時には書面にて開催
社会福祉審議会障害者施策推進専門部会	阪本	４回	障害福祉計画策定についての検討
吹田地域精神医療学習会	阪本	0回	医療、福祉、行政など任意で集まり、事例検討、研修を行う。

2022年度　　研修参加実績　　事業所名：　エスペランサ

氏名	開催日	研修時間	研修テーマ	①人権	②事業	③資格	④管理者	⑤新人	⑥SW	⑦法律	⑧その他	備考
塩崎綾香	9月27日	10 : 00 ～ 12 : 00	防災訓練		○							
北山晶規	10月3日	18 : 30 ～ 20 : 30	日中活動事業所連絡会 学習会 知的障がいの基礎知識とコミュニケーション						○			当日参加せず、後日録画を視聴した。
阪本裕貴	10月3日	18 : 30 ～ 20 : 30	日中活動事業所連絡会 学習会 知的障がいの基礎知識とコミュニケーション						○			
南川直子	10月3日	18 : 30 ～ 20 : 30	日中活動事業所連絡会 学習会 精神障がいの基礎知識とコミュニケーション						○			
大原偉子	10月3日	18 : 30 ～ 20 : 30	日中活動事業所連絡会 学習会 精神障がいの基礎知識とコミュニケーション						○			
大原偉子	10月11日	11 : 00 ～ 12 : 30	はぴすま のぞみ月間 ガーデニア ワークショップ								○	
伊郷梨絵	10月11日	11 : 00 ～ 12 : 30	はぴすま のぞみ月間 ガーデニア ワークショップ								○	
本宮知純	10月12日	15 : 20 ～ 16 : 40	日中活動事業所連絡会 学習会 知的障がいの基礎知識とコミュニケーション						○			当日参加せず、録画を視聴した。
阪本裕貴	11月11日	19 : 00 ～ 21 : 15	疲弊を回避し、利用者と職員の意識を高めるには						○			法人主催
塩崎綾香	11月16日	13 : 00 ～ 14 : 30	疲弊を回避し、利用者と職員の意識を高めるには						○			法人主催
前田由香	11月16日	13 : 00 ～ 14 : 30	疲弊を回避し、利用者と職員の意識を高めるには						○			法人主催
南川直子	11月16日	13 : 00 ～ 14 : 30	疲弊を回避し、利用者と職員の意識を高めるには						○			法人主催
本宮知純	11月16日	13 : 00 ～ 14 : 30	疲弊を回避し、利用者と職員の意識を高めるには						○			法人主催
北山晶規	11月16日	13 : 00 ～ 14 : 30	疲弊を回避し、利用者と職員の意識を高めるには						○			法人主催
大原偉子	11月16日	13 : 00 ～ 14 : 30	疲弊を回避し、利用者と職員の意識を高めるには						○			法人主催
村本初治	11月16日	13 : 00 ～ 14 : 30	疲弊を回避し、利用者と職員の意識を高めるには						○			法人主催
阪本裕貴	3月24日	15 : 00 ～ 18 : 30	ハラスメントについて							○		法人主催
塩崎綾香	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	ハラスメントについて							○		法人主催
前田由香	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	ハラスメントについて							○		法人主催
南川直子	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	ハラスメントについて							○		法人主催
本宮知純	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	ハラスメントについて							○		法人主催
北山晶規	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	ハラスメントについて							○		法人主催
大原偉子	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	ハラスメントについて							○		法人主催
村本初治	3月24日	15 : 00 ～ 16 : 30	ハラスメントについて							○		法人主催
南川直子	3月29日	13 : 00 ～ 15 : 00	権利擁護支援に関して						○			社協主催 講演会の録画動画視聴
北山晶規	3月31日	13 : 00 ～ 15 : 00	権利擁護支援に関して						○			社協主催 講演会の録画動画視聴

事業報告の附属明細書

令和４年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していません。

社会福祉法人のぞみ福祉会